

姶良郡加治木町



「II-2」

縄文土器2

1997年3月

## 目 次

### 第4章 調査の概要

第2節 繩文時代 .....	i
2. 遺物 .....	i
1) 土器 .....	i
(24) 第III-1類土器：市来式土器-1 .....	i
① a類土器 .....	i
② b類土器 .....	i
③ c類土器 .....	ii
④ d類土器 .....	ii
⑤ e類土器 .....	ii
⑥ f類土器 .....	ii
⑦ g類土器 .....	ii
⑧ h類土器 .....	ii
⑨ i類土器 .....	ii
⑩ j類土器 .....	ii
⑪ k類土器 .....	ii
⑫ l類土器 .....	ii
⑬ m類土器 .....	iii
⑭ n類土器 .....	iii
⑮ o類土器 .....	iii
⑯ p類土器 .....	iii
⑰ q類土器 .....	iii
⑱ r類土器 .....	iii
⑲ s類土器 .....	iii

## 挿 図 目 次

第1図 繩文土器(165) .....	1
~ 第166図 繩文土器(330) .....	166

## 表 目 次

第1表 繩文土器観察表46 .....	167
~ 第27表 繩文土器観察表73 .....	193

## 第4章 調査の概要

### 第2節 繩文時代

#### 2. 遺物

##### 1) 土器

本遺跡では、南九州の縄文時代後期を代表する土器として古くから知られてきた市来式土器が大量に出土した。これは口縁部断面形が三角形を呈する深鉢形土器である。市来式土器と確認できる部位の出土点数だけで26,117点を数える。これはタイプの把握できた全ての土器点数の約35%にある。

本書の分類ではその市来式土器を市来式土器-1（断面三角形部の上位のみ文様をもつもの）、市来式土器-2（胴部まで文様が施されるもの）、市来式土器の器形を有しながら無文の土器の3種に分類し、それぞれIII-1類、III-2類、III-3類土器と呼称し掲載した。

これら市来式土器の深鉢とセットをなすと考えられる草野式土器・台付皿形土器・無文土器についてはそれぞれグループを分けて取り扱った。

##### （24）第III-1類土器（第1～166図 2699～4300）

多量に出土した市来式土器の中でもっとも多く出土したのがこのタイプで、前述のように口縁部断面三角形部の上位のみに文様をもつ土器群である。この類の土器は、調査区のほぼ全域で出土するが、大きくは自然流路跡（R1）を中心とする区域と調査区南端域の2か所に分かれて出土する傾向がある。ただし、それらの間に位置する区域では、既に包含層がカットされていた部分でもあることから、本来は分布のエリアが繋がっていた可能性がある。これらは口縁部文様の形態から19種に細分した。

###### ① a類（第1～46図 2699～3237）

口縁部文様が単一刺突文で施された土器である。同一文様を単純に口縁部に連続して巡らすものである。施文具は貝殻腹縁部やヘラ状工具を用いたものが多い。掲載した土器のうち、平縁口縁が約7割を占め山形口縁の数を凌駕している。出土総点数は5016点にものぼり、本遺跡の市来式土器の中で最も多いタイプの土器である。自然流路跡（R1）の13H区や15G区・20F区付近の3か所に出土のピークがみられる。

文様同様に器形も比較的質素なものが多いが、2702や3178などのように脚台をもつ土器や、2811や2815などのように口唇部に突起部をもつもの、3162のように橋状把手をもつものなども若干含まれている。

###### ② b類（第46～50図 3238～3287）

口縁部文様に貝殻腹縁部による刺突文を横位あるいは斜位に連続して施文する土器である。総数381点出土した。13H区や16G区付近の自然流路跡（R1）を中心に出土しているが、調査区南端域の22N区（R2）付近にも集中して出土した。

③ c 類(第51～58図 3288～3358)

口縁部文様帶に1条から数条の沈線文を施す土器群である。山形口縁部の頂部に連点文を施したものもこの類に含めてある。文様同様に比較的質素な土器であるが、3351～3356のように橋状把手をもつ土器もある。12H区や15G区の自然流路跡（R 1）を中心に総数530点出土した。

④ d 類(第58～64図 3359～3403)

横走する沈線文を基本とする文様に縦位の短沈線文や刺突文をポイントとして施したものである。3360や3367は本類の特徴的な土器である。13H区・15G区・19E区の自然流路跡（R 1）を中心に総数404点出土した。

⑤ e 類(第65, 66図 3404～3427)

口縁部下に貝殻腹縁部による刺突文や沈線文で構成した鋸齒状文様がみられる土器である。3421のように鋸齒状に施文された細線文と連点文を組み合わせた土器もある。3424や3427などは鋸齒状というより弧状に施文した例である。15・16G区付近を中心に総数86点出土した。

⑥ f 類(第67図 3428～3433)

口唇部にのみ刻目文を施す土器である。3430と3431には橋状把手がみられる。総出土点数は6点と少ない。

⑦ g 類(第68～70図 3434～3474)

口唇部に刻目をもち、さらに口縁部下に貝殻腹縁部やヘラ状工具により連続刺突文を巡らすものである。3454や3455は脚台付きの深鉢である。3464～3474のように断面三角形の頂部に刻みをもつものも含む。13H区や15G区の自然流路跡（R 1）を中心に総数115点出土した。

⑧ h 類(第71, 72図 3475～3491)

口唇部に刻目をもち、さらに口縁部下に横走する数条の沈線文を施すものである。3475の口唇部にはW(M)字状の貼付文がみられる。12H区や15G区の自然流路跡（R 1）を中心に総数83点出土した。

⑨ i 類(第73～80図 3492～3559)

口唇部に刻目をもち、さらに口縁部下に沈線文さらに下位に連続刺突文を施すものである。3509や3536にはX字状の橋状把手がある。13H区・15G区・19E区の自然流路跡（R 1）を中心に総数286点出土した。

⑩ j 類(第80図 3560～3566)

口縁部下に連続刺突文を、さらにその下位に沈線文を施すものである。13I区・15G区の自然流路跡（R 1）や22M区を中心に総数71点出土した。

⑪ k 類(第80, 81図 3567～3581)

口縁部下に密な連続刺突文を、さらにその下位に貝殻腹縁部による斜位の連続刺突文を施すものである。掲載した本類はすべて平縁口縁である。16G区を中心とした自然流路跡（R 1）や21O区付近を中心に総数52点出土した。

⑫ l 類(第81～90図 3582～3650)

口縁部下に沈線文を、さらにその下位に連続刺突文を施すものである。本類には3630や3636などのように沈線間に刺突文を施したものも含めた。3606や3623などのように橋状把手をもつもの

や、3613のように山形口縁部に縦位の突起をもつものなどもある。13H区や14~16G区の自然流路跡（R 1）や19E区を中心に総数483点出土した。

⑩m類(第91~94図 3651~3690)

口縁部下に貝殻腹縁部による斜位の連続刺突文を施し、さらにその下位に凹点状の密な連続刺突文を施したものである。掲載した40点のうち明瞭な山形口縁をなすものは5点しかなく、類似した文様構成をもち、平縁口縁しかみられないk類と同じような傾向を示している点は興味深い。13H区や15G区の自然流路跡（R 1）や22M, N区を中心に総数283点出土した。

⑪n類(第94, 95図 3691~3711)

口縁部下断面三角形の頂部に刻目をもつものである。18D区や自然流路跡（R 1）を中心に総数193点出土した。

⑫o類(第96~98図 3712~3748)

口縁部文様帶の上下2列に連続刺突文を巡らすものである。自然流路跡（R 1）を中心として総数253点出土した。

⑬p類(第99~143図 3749~4114)

口縁部文様帶の上下2列に巡らした連続刺突文の間に1条から数条の沈線文を施したものである。4045~4114のように、沈線間にさらに（貝殻）刺突文を加えたものも含んでいる。この類は出土総数4113点と本遺跡の市来式土器の中でa類に次いで多い。また3783・3796のような橋状把手をもつものも多く、III-1類土器の中では、最も複雑な文様構成をもった土器群である。

掲載した土器のうち、山形口縁が約7割で平縁口縁の割合をかなり上回っている。これは最も単純な文様構成をもつa類土器と全く逆の傾向を示しており興味深い。

口縁部文様が比較的複雑な分、文様帶の幅も他に比べてやや広い傾向にある。必然的に口縁部が重い作りになっている。特に3802などの山形口縁部は、まさに“塊”状態である。しかし土器の製作者はこの重い4つの“塊”を実に見事なバランスで均整のとれたフォームを作りあげているのである。しかもその個体の中で最も器壁の薄いのがこの重い“塊”部分の直下なのである。このような調和のとれた土器製作にはかなりの技術が必要としたものと考えられる。

本類土器は調査区のはば全域にその広がりを見せるが、14~16G区および13~15H区の自然流路跡（R 1）に出土の圧倒的なピークがある。

⑭q類(第144~154図 4115~4205)

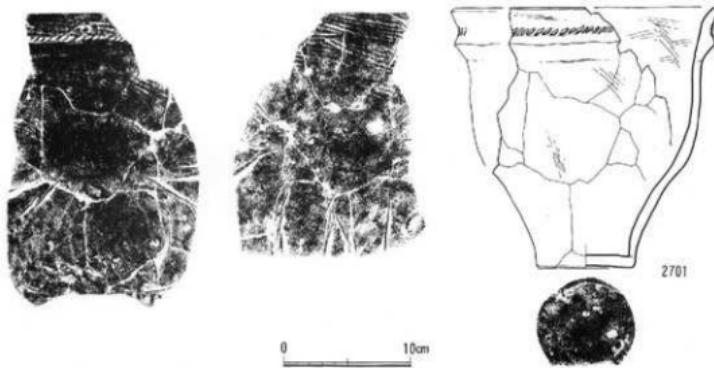
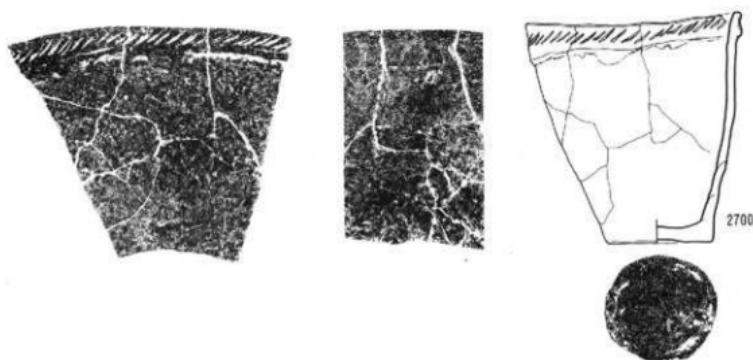
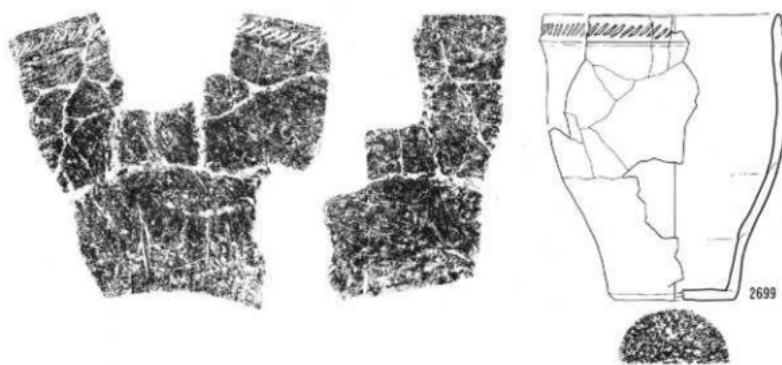
口縁部文様帶の上下2列に巡らした連続刺突文の間に主として貝殻腹縁部による刺突文を施したものである。4170~4250は刺突文の間隔が広いものである。p類とほぼ同様な出土状況を示している。総数482点出土した。

⑮r類(第155~159図 4206~4239)

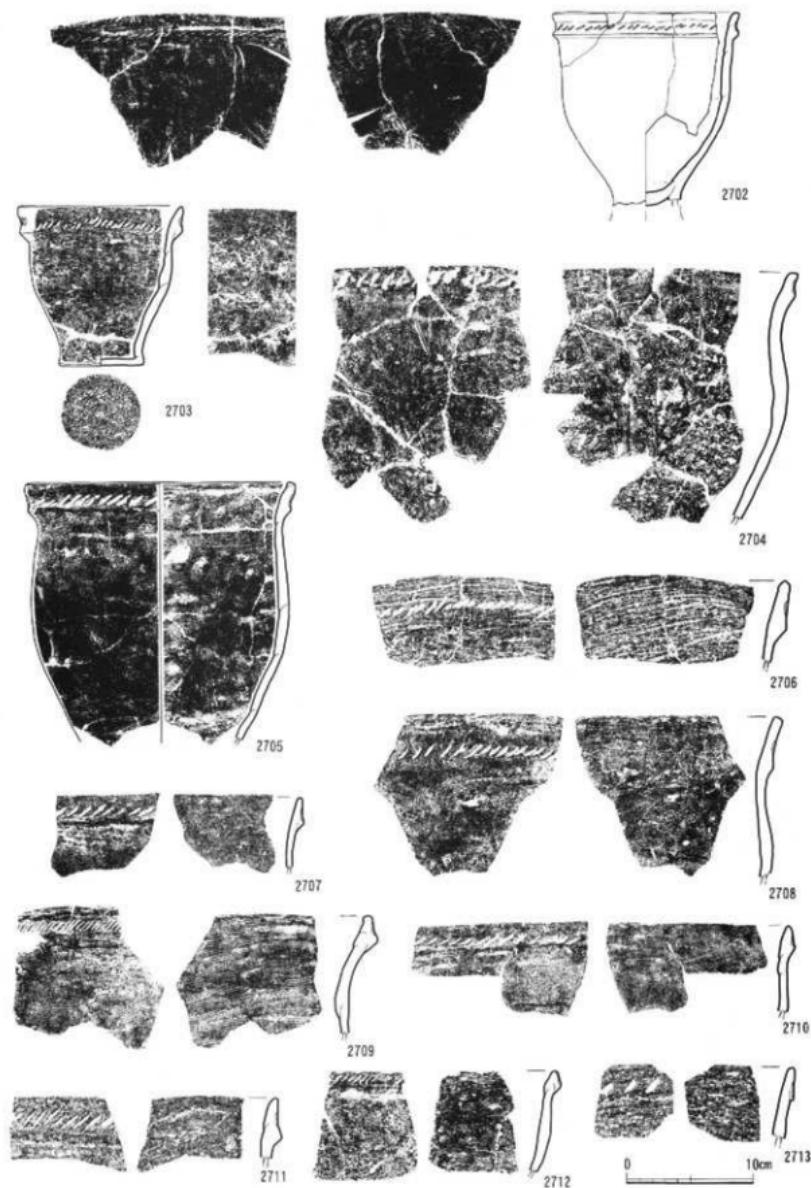
口縁部文様帶を沈線文と連続する凹点や刺突文で飾る土器群である。22M, N区や自然流路跡（R 1）などを中心に総数128点出土した。

⑯s類(第159~166図 4240~4300)

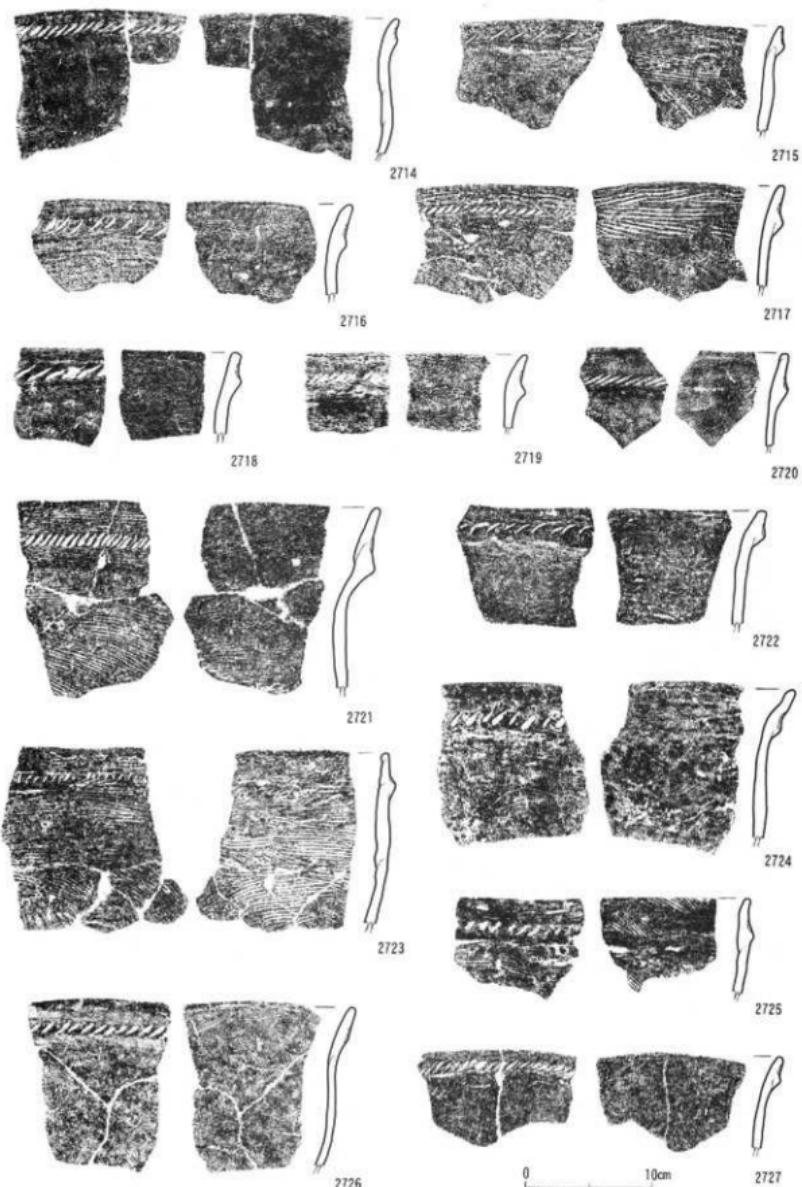
この類はa~r類のいずれにも該当しなかったものを一括して取り扱った。小片のため市来式土器の範疇で捉えられるということ以外詳細不明なものも含め、総数12,161点出土した。



第1図 繩文土器 (165)

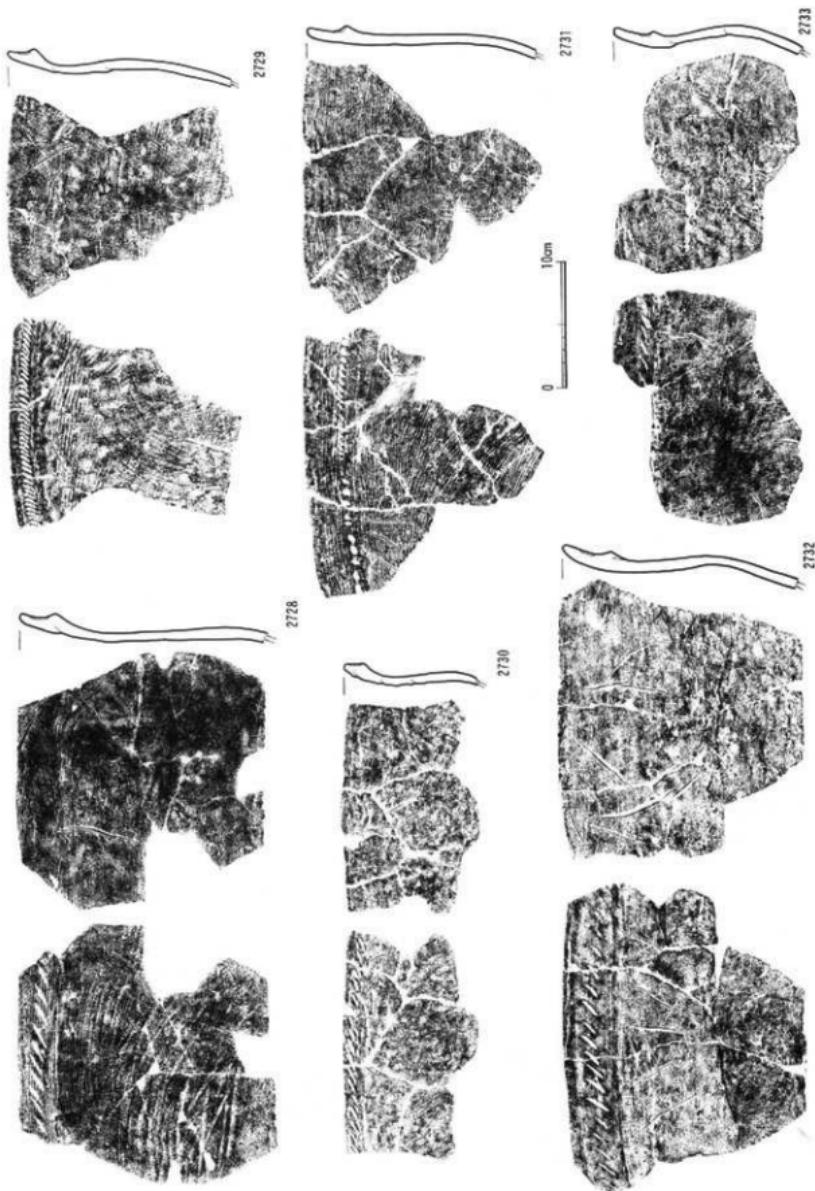


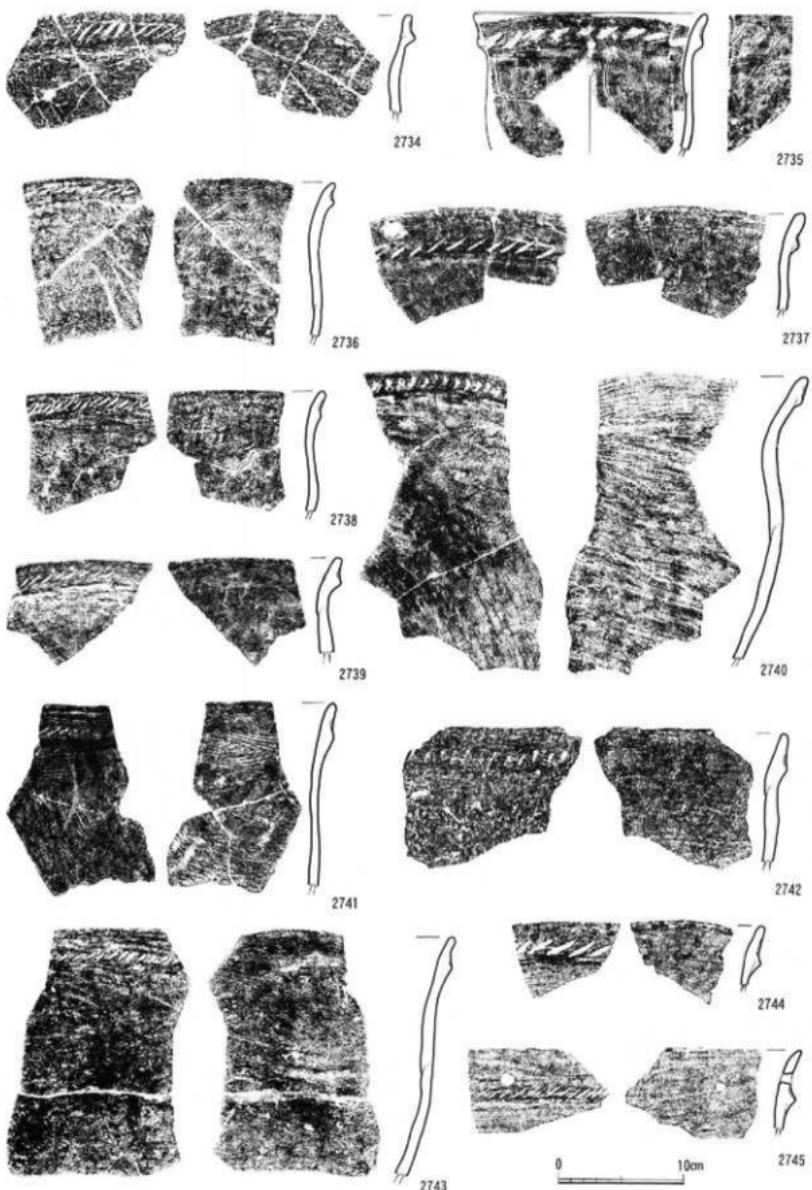
第2図 繩文土器 (166)



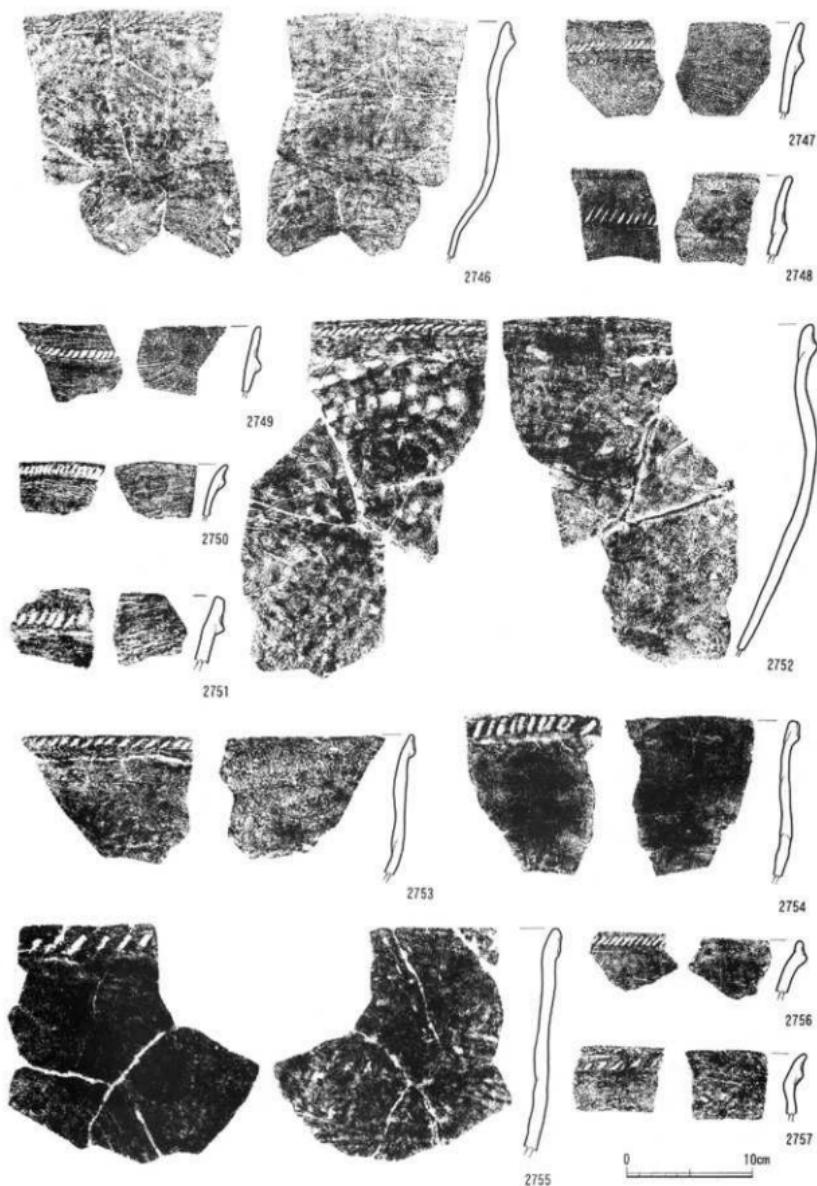
第3図 縄文土器 (167)

第4図 繩文土器 (168)

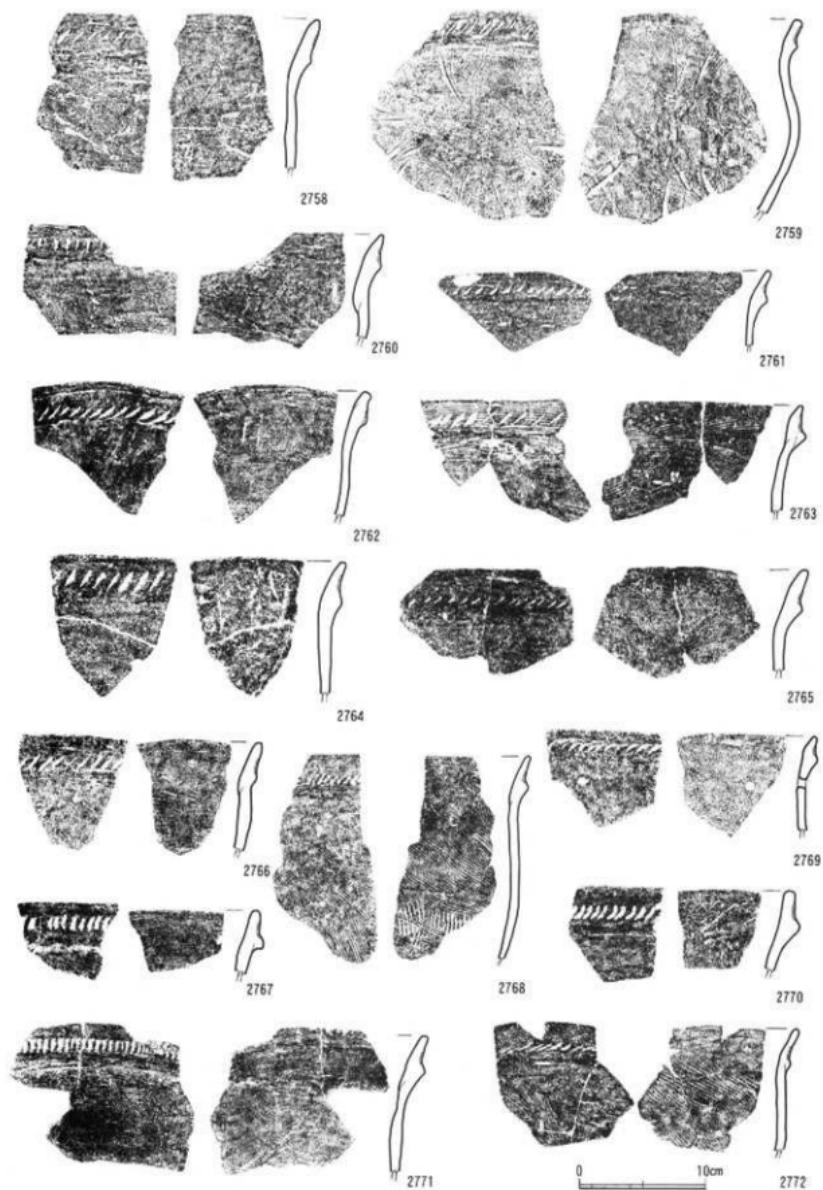




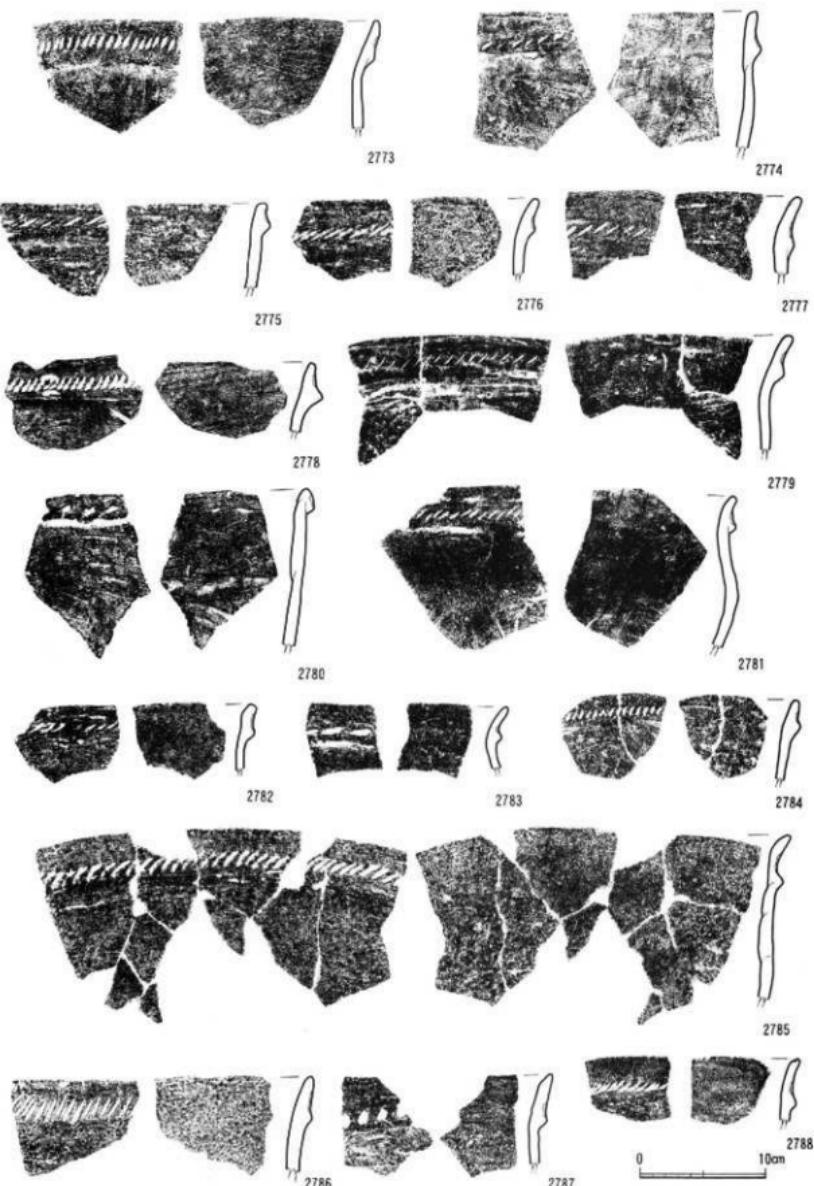
第5図 繩文土器 (169)



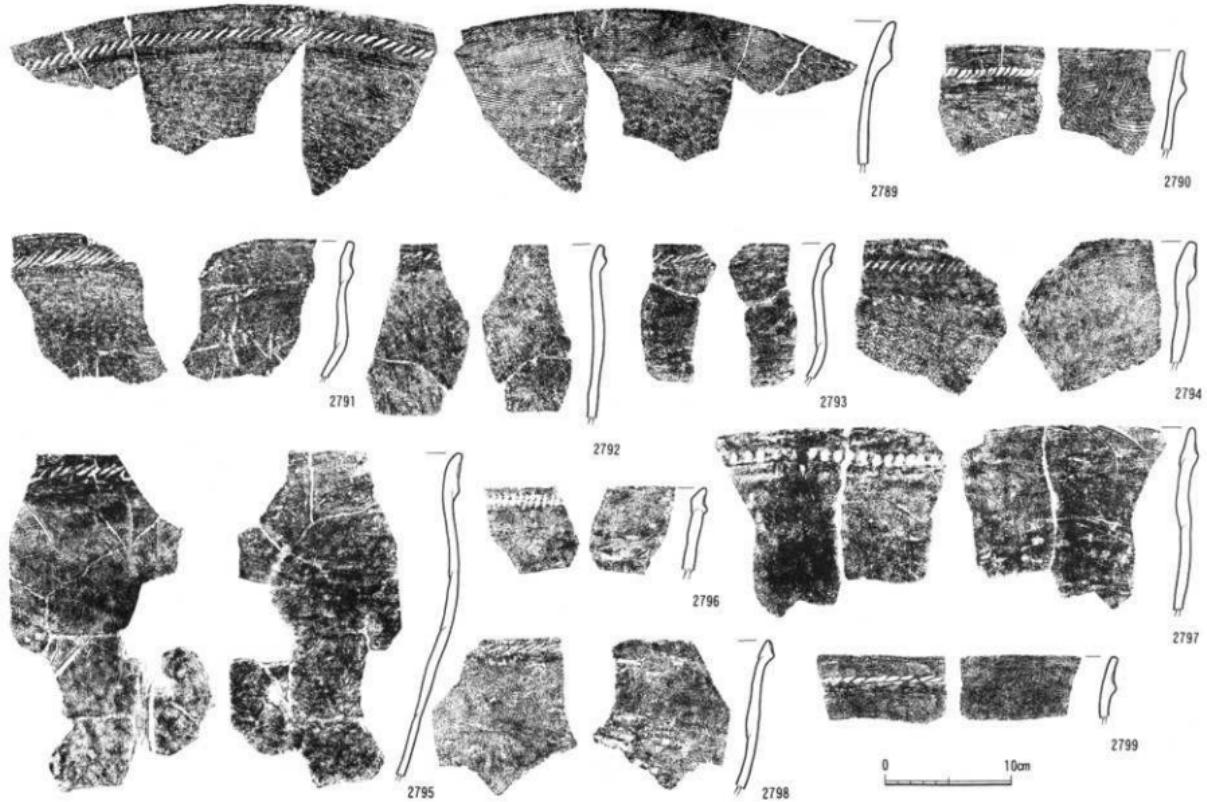
第6図 縄文土器 (170)



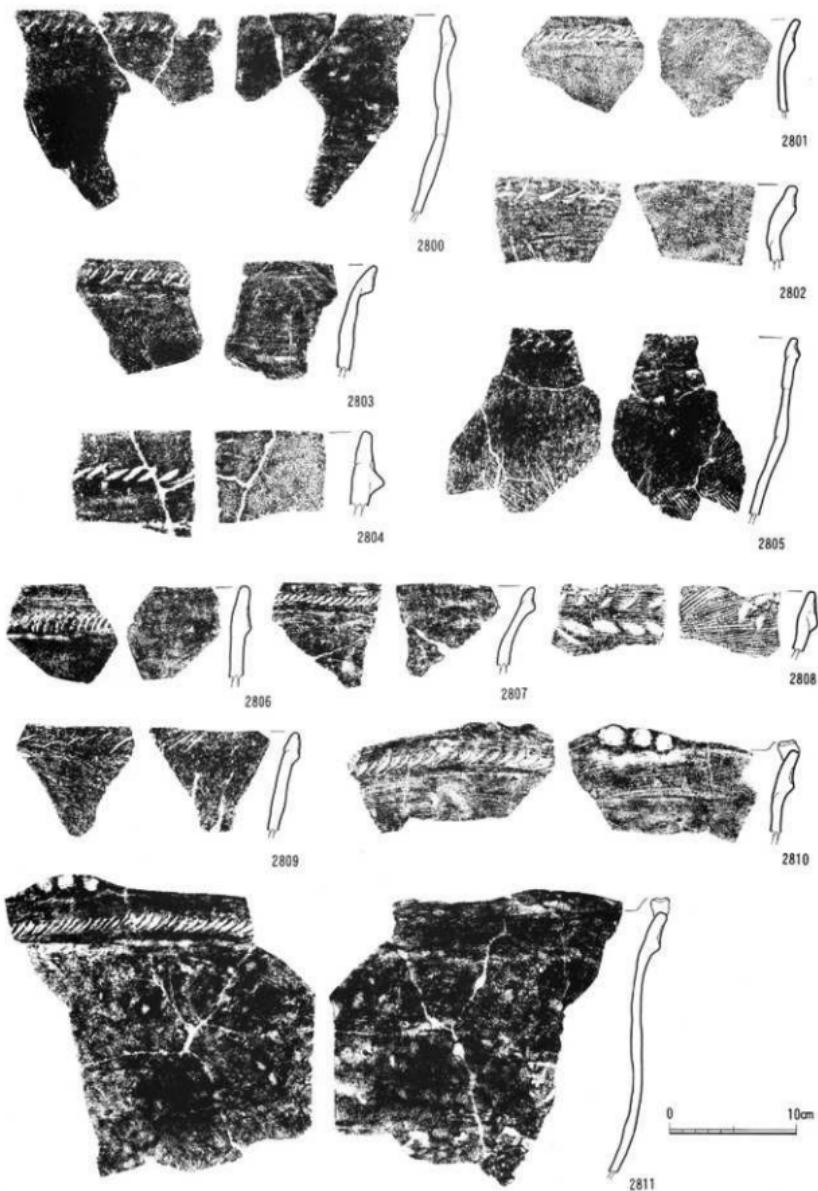
第7図 繩文土器 (171)



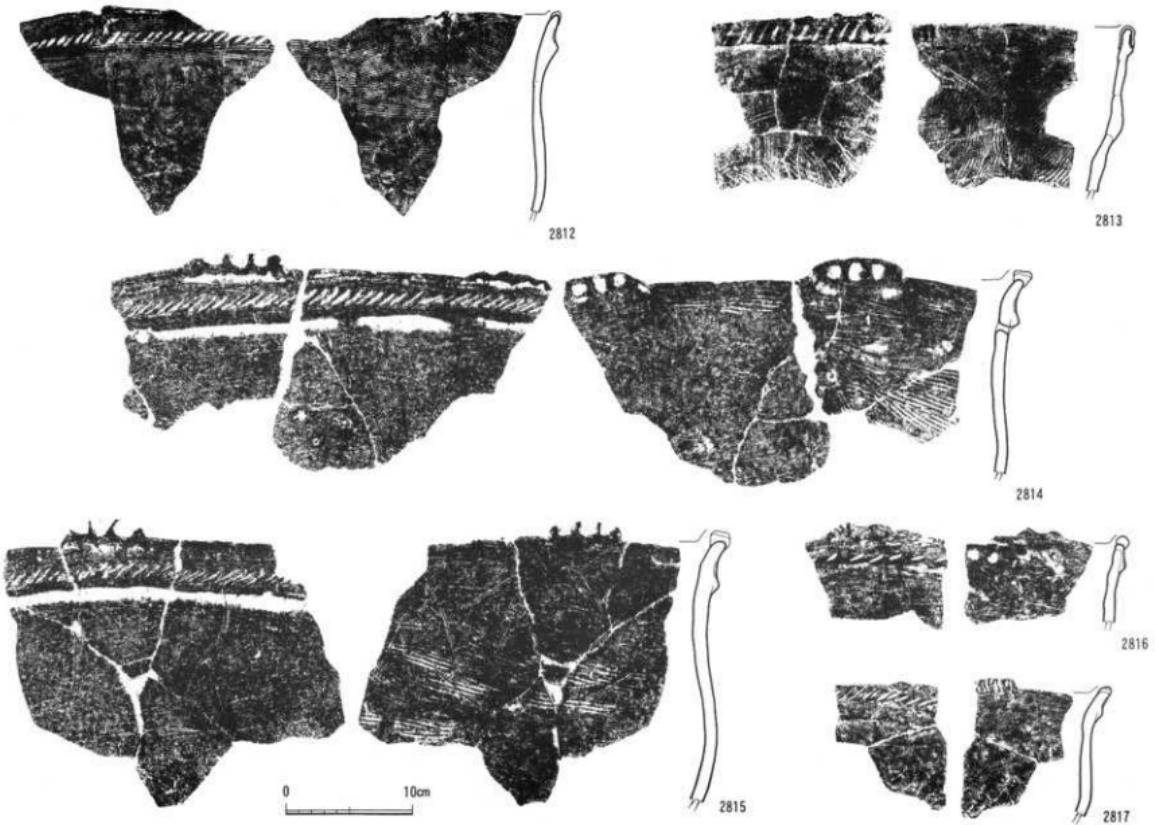
第8図 繩文土器 (172)



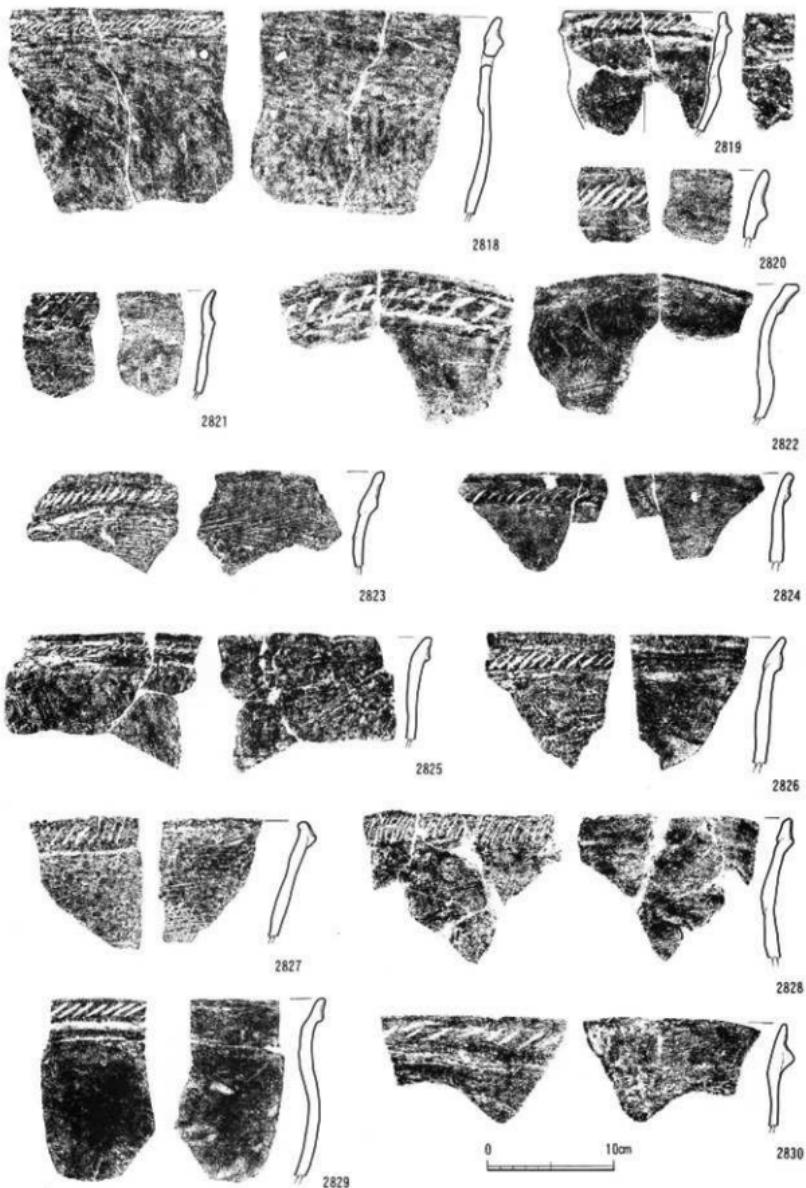
第9図 縄文土器 (173)



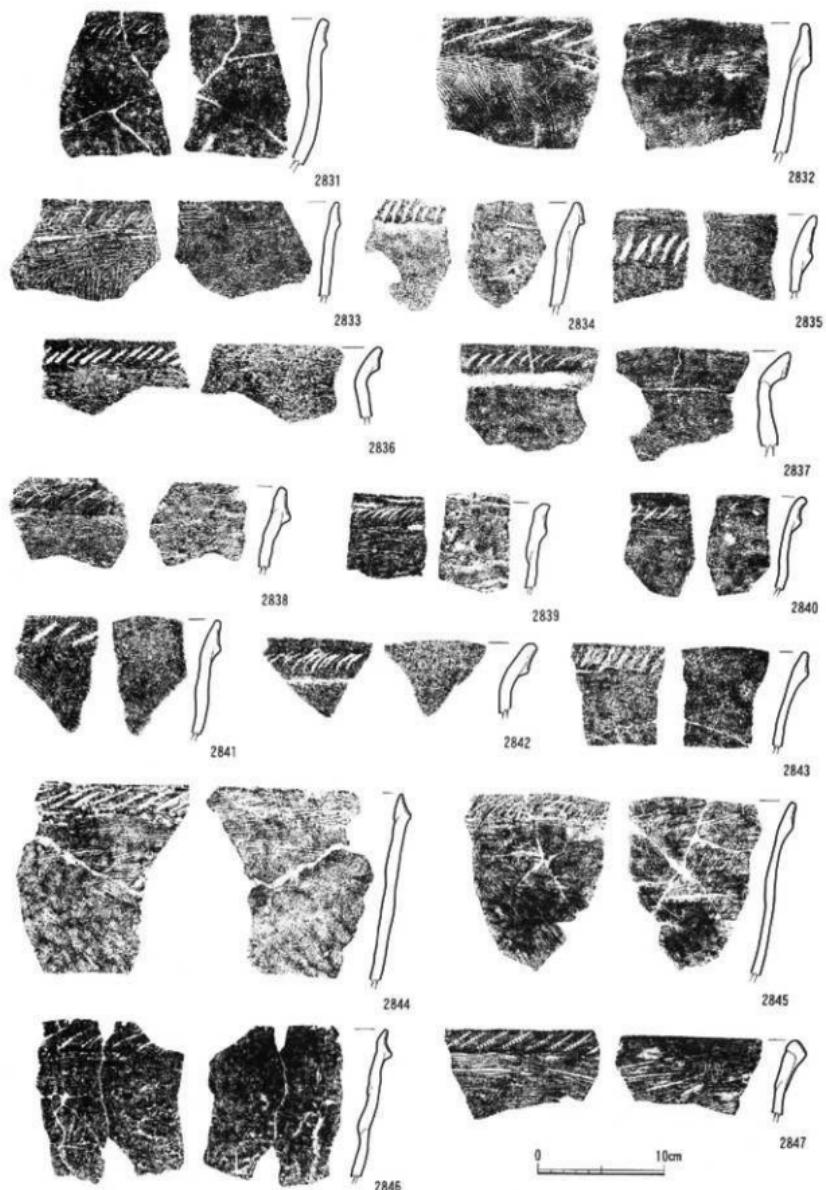
第10図 縄文土器 (174)



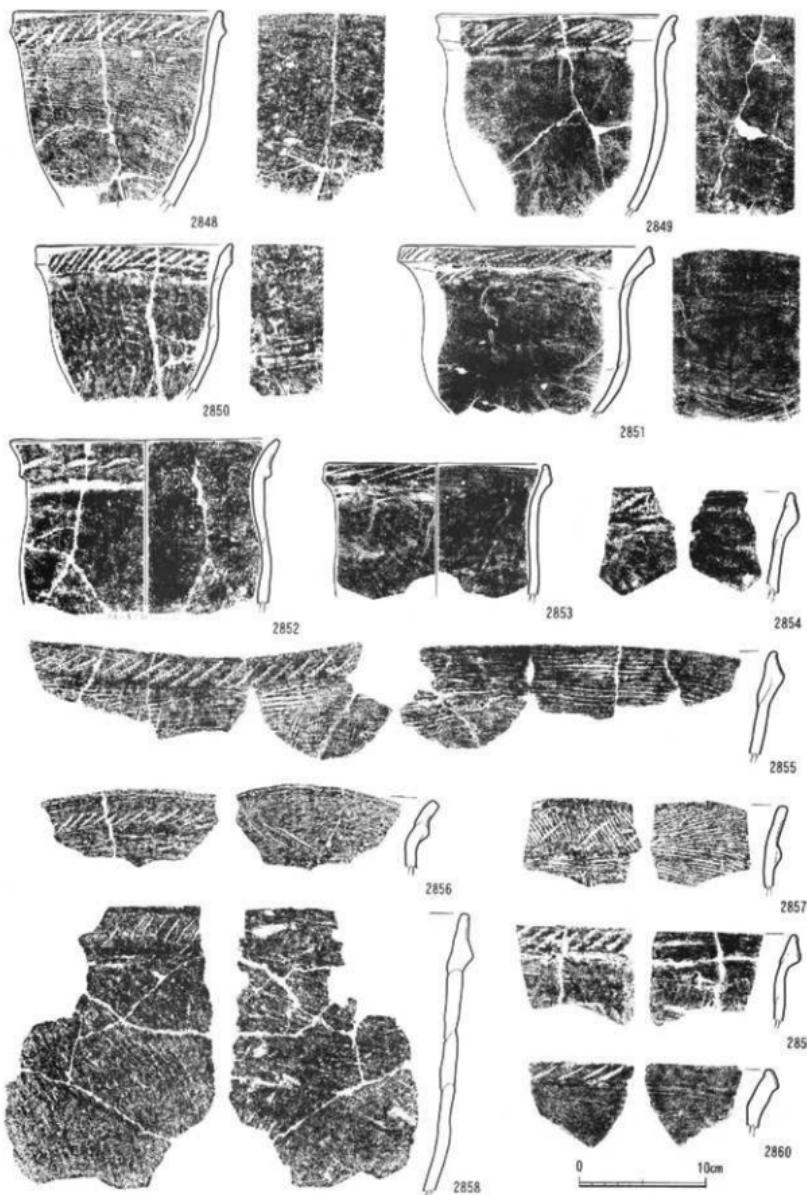
第11図 桶文土器 (175)



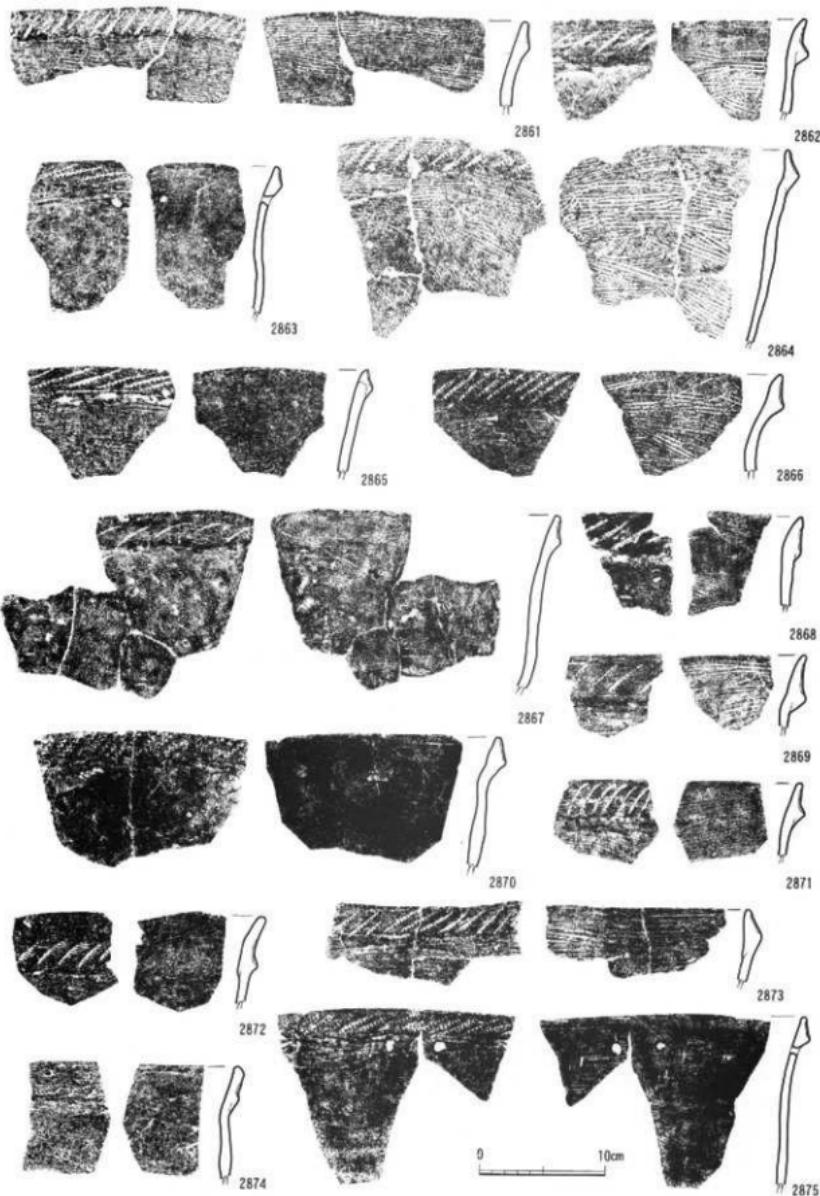
第12図 繩文土器 (176)



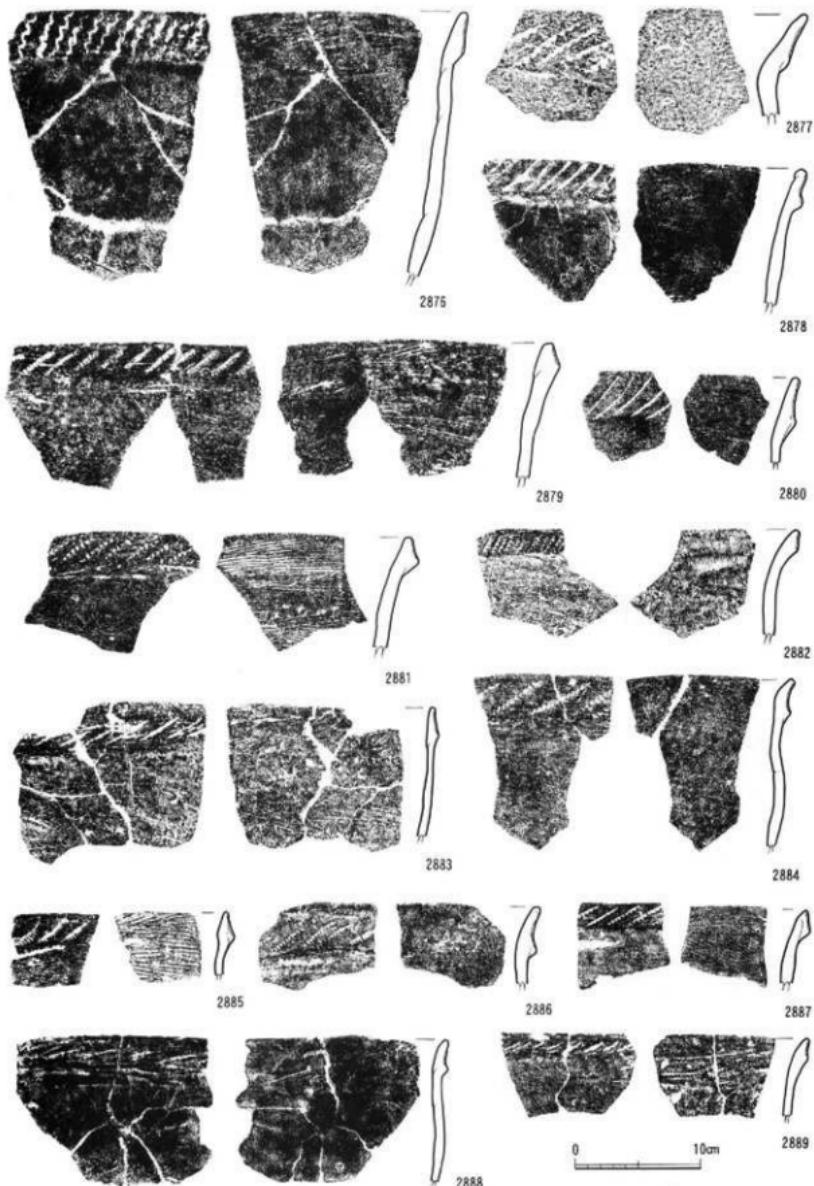
第13図 縄文土器 (177)



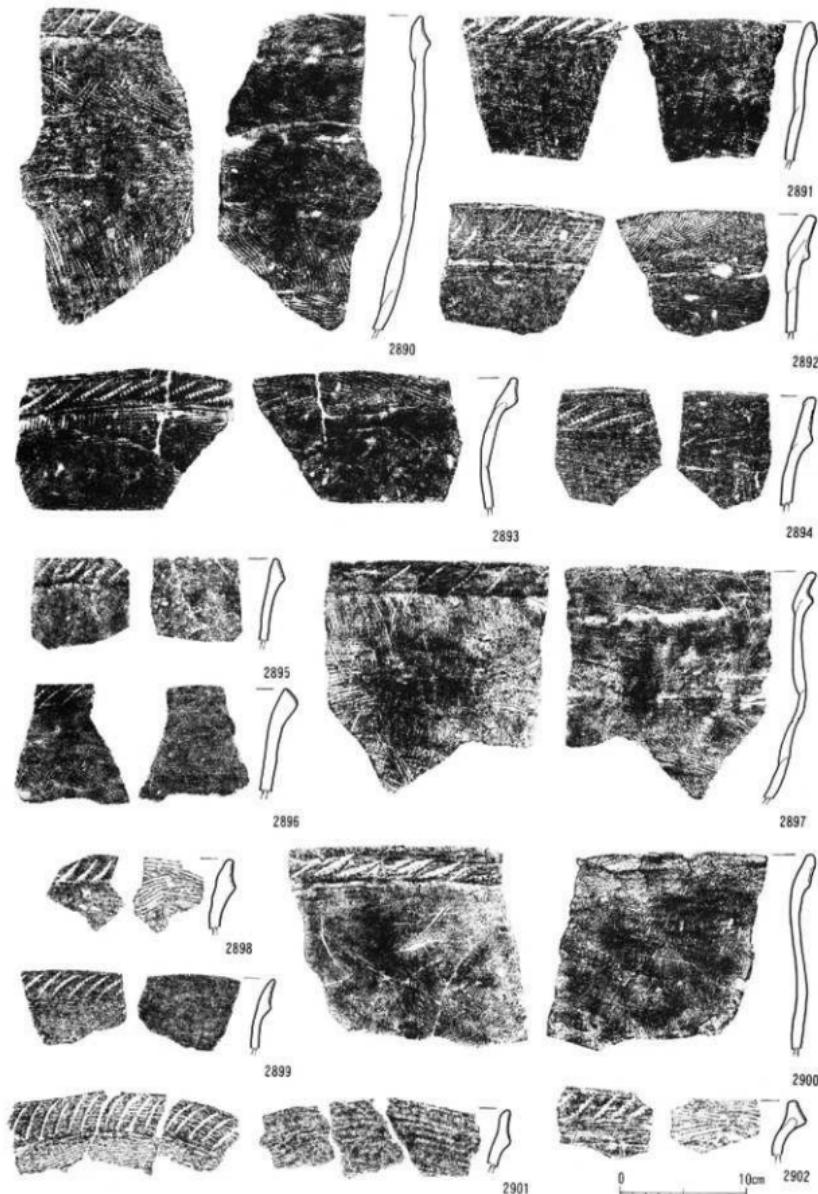
第14図 繩文土器 (178)



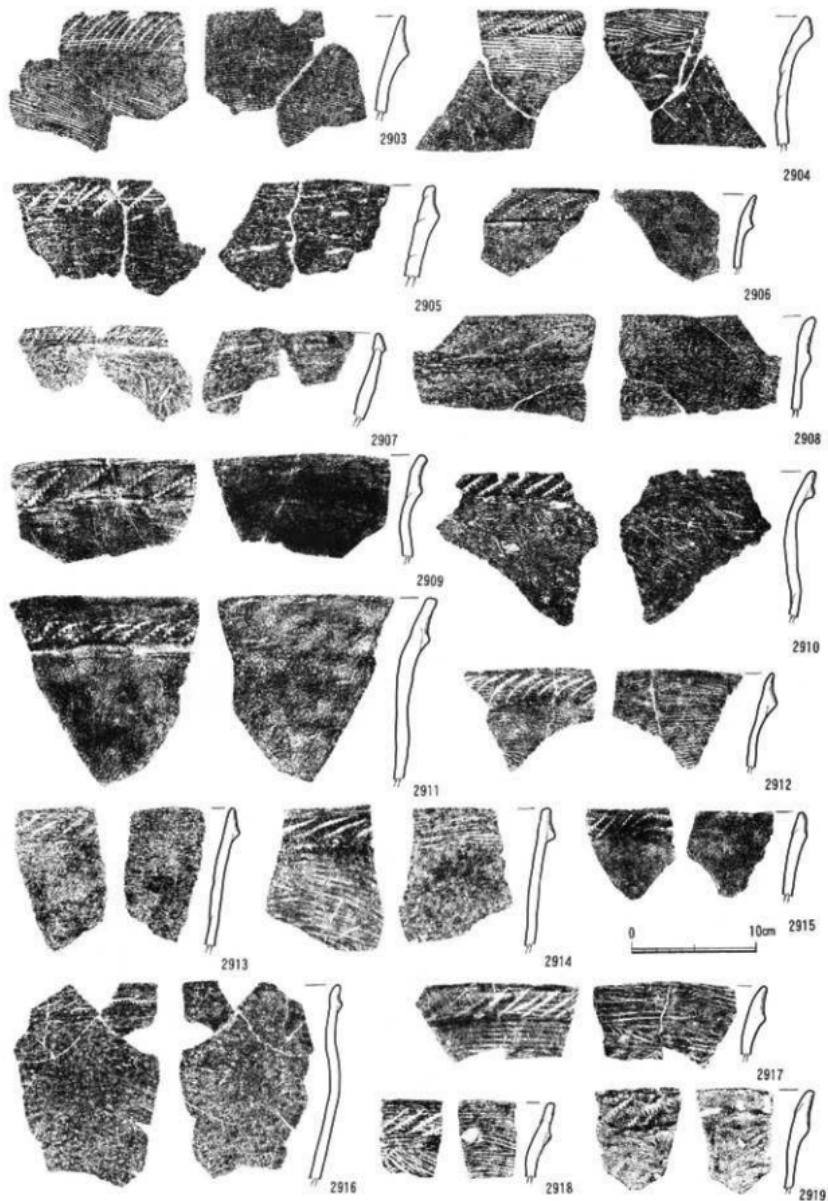
第15図 繩文土器 (179)



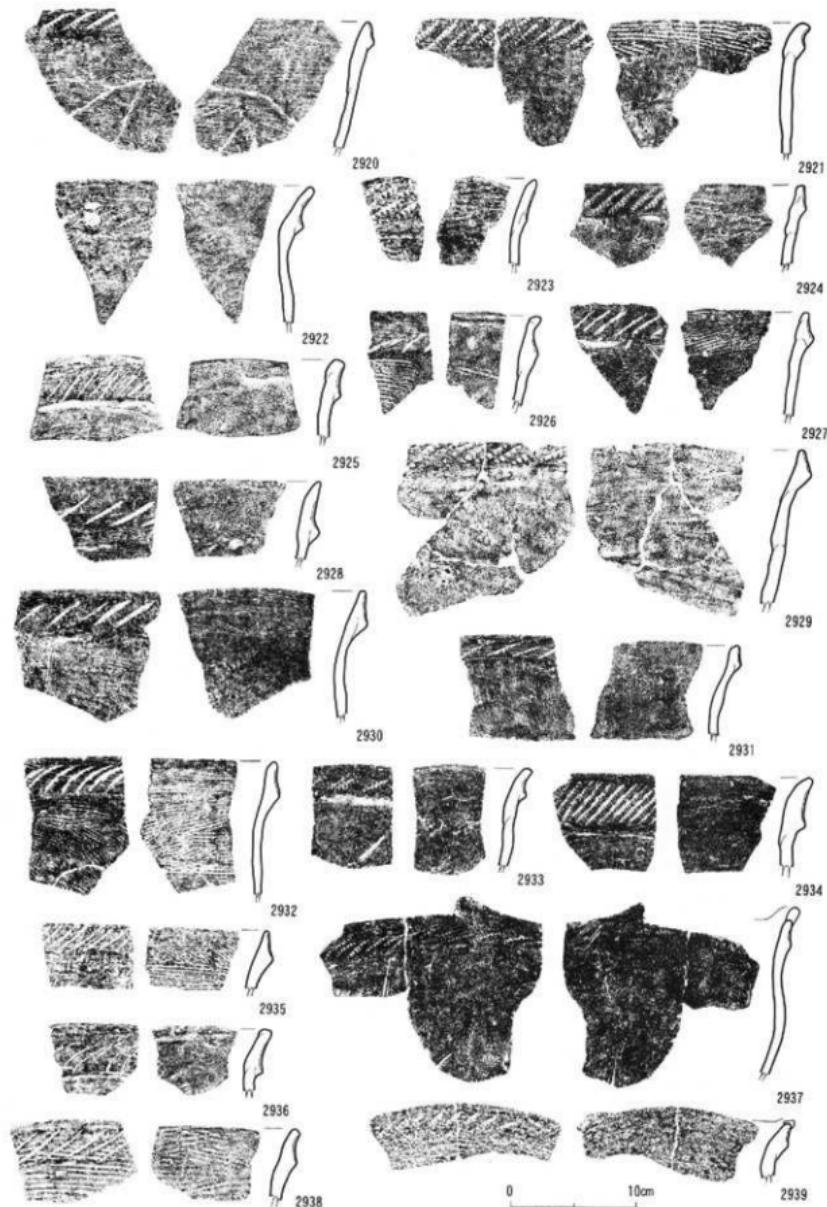
第16図 縄文土器 (180)



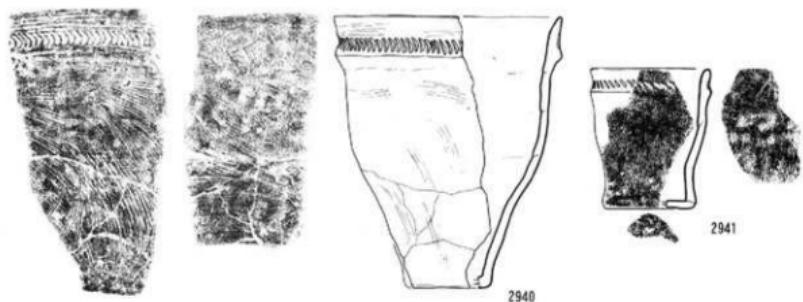
第17図 縄文土器 (181)



第18図 縄文土器 (182)

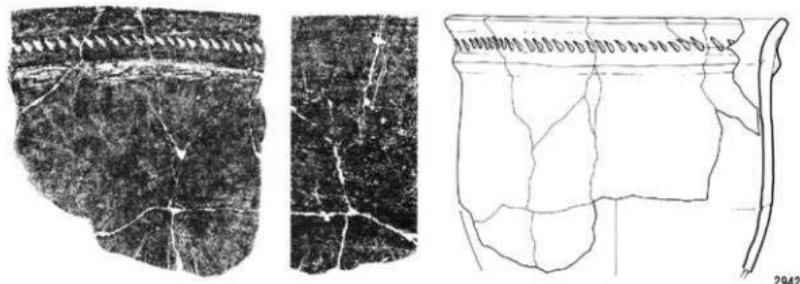


第19図 繩文土器 (183)

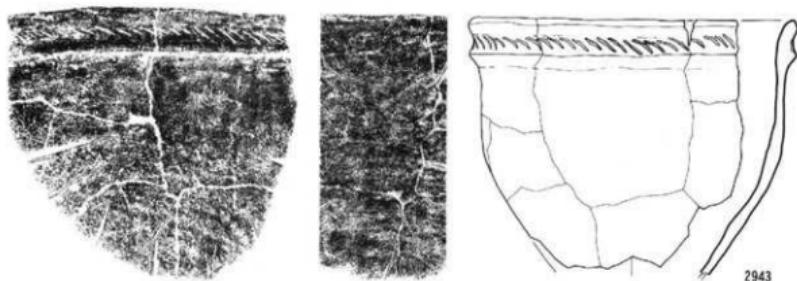


2940

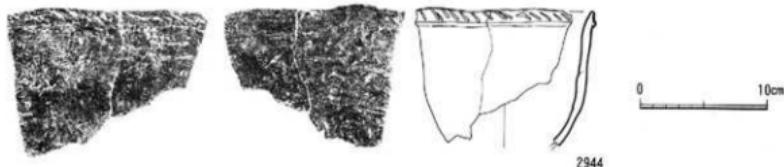
2941



2942



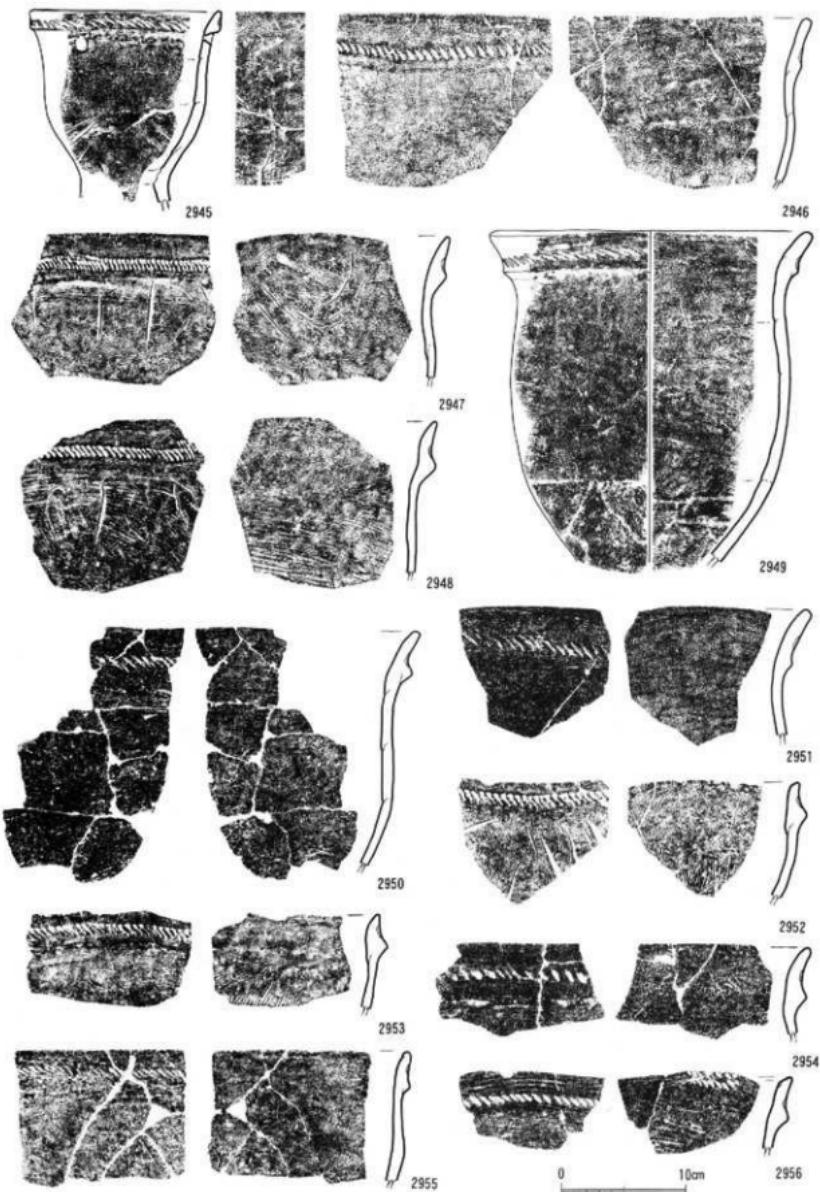
2943



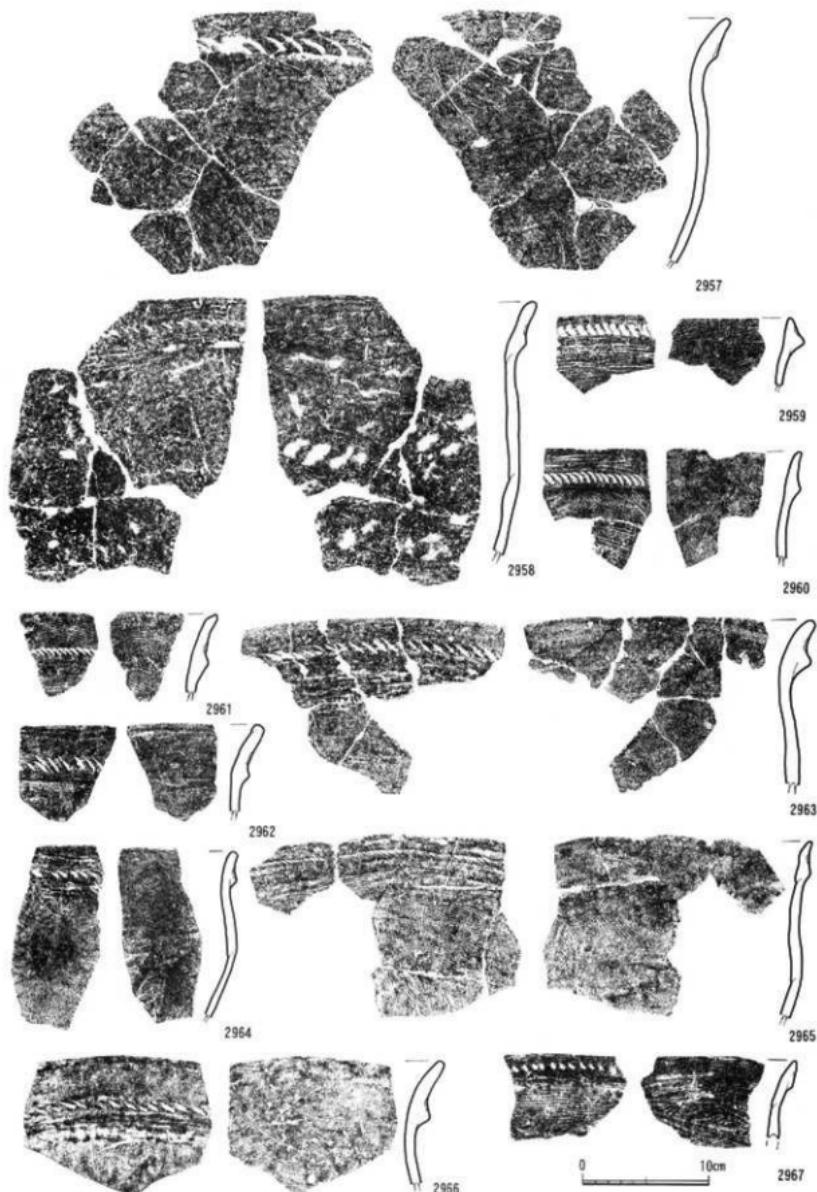
2944

0 10cm

第20図 繩文土器 (184)



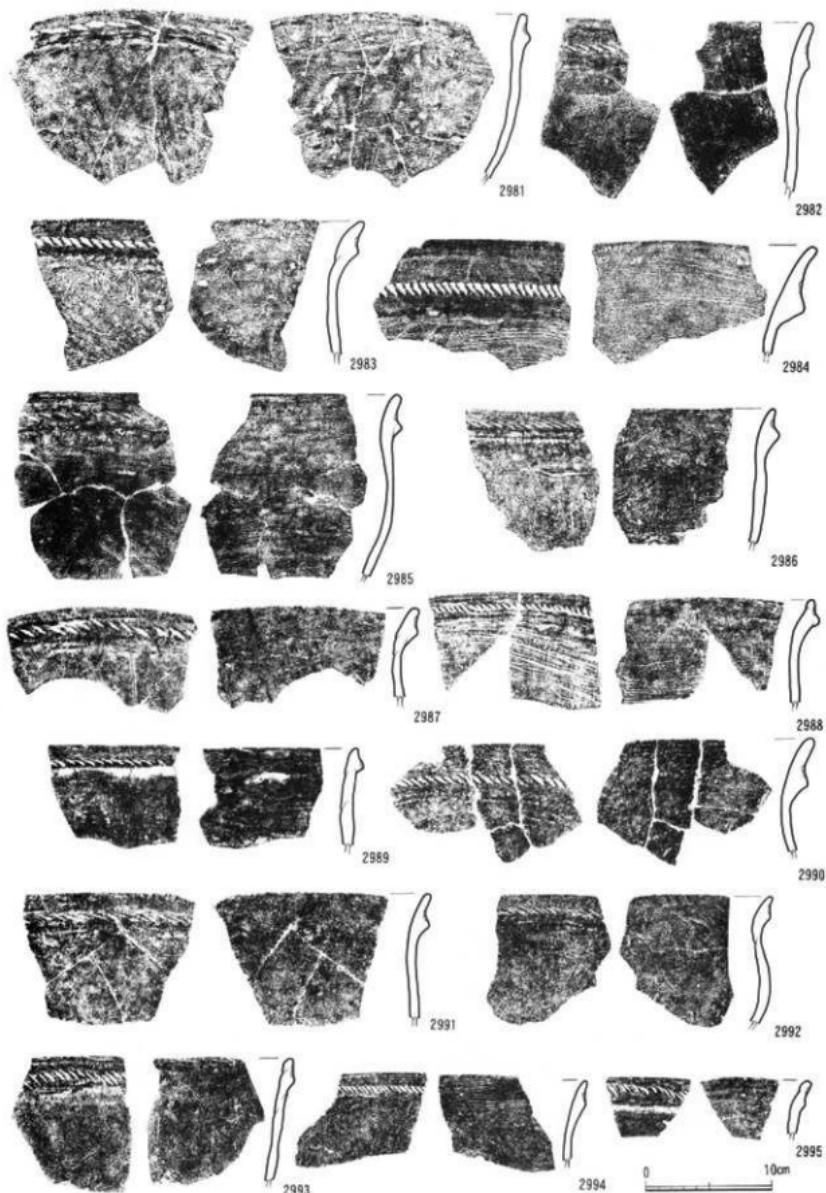
第21図 繩文土器 (185)



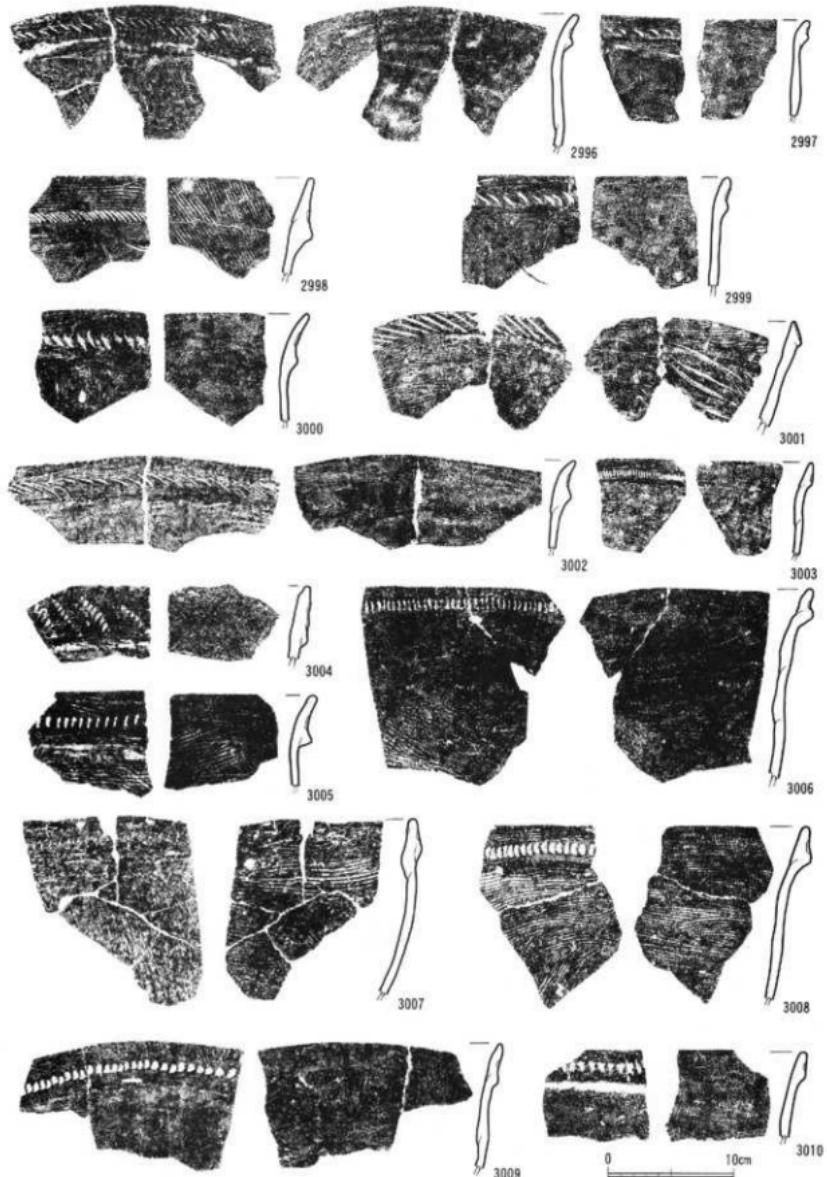
第22図 縄文土器 (186)



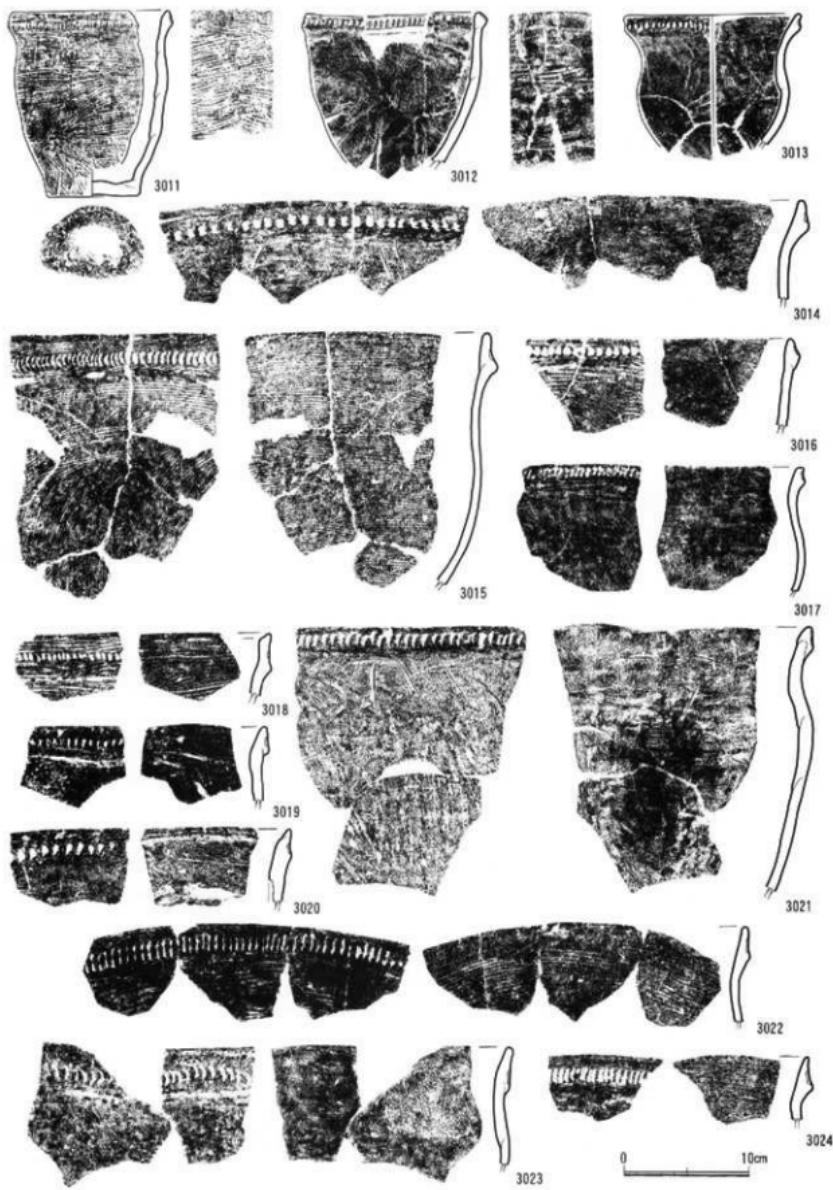
第23図 繩文土器 (187)



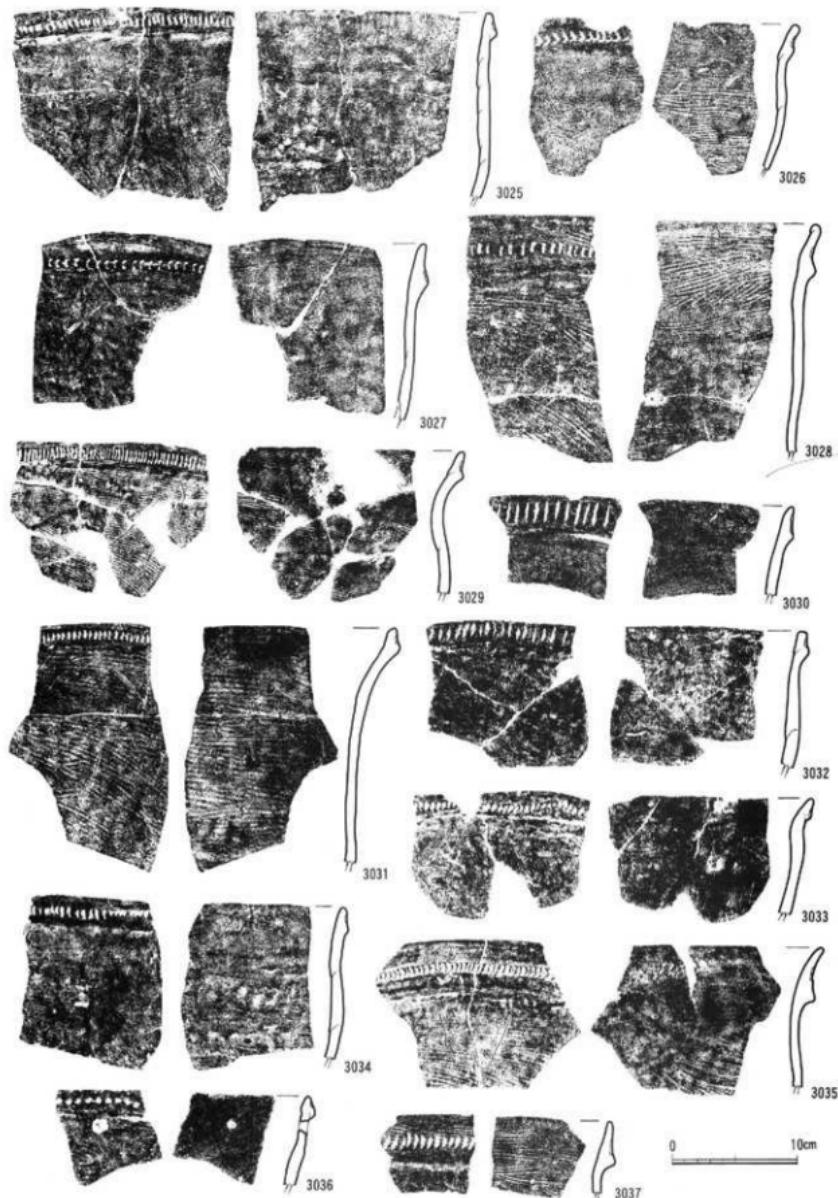
第24図 縄文土器 (188)



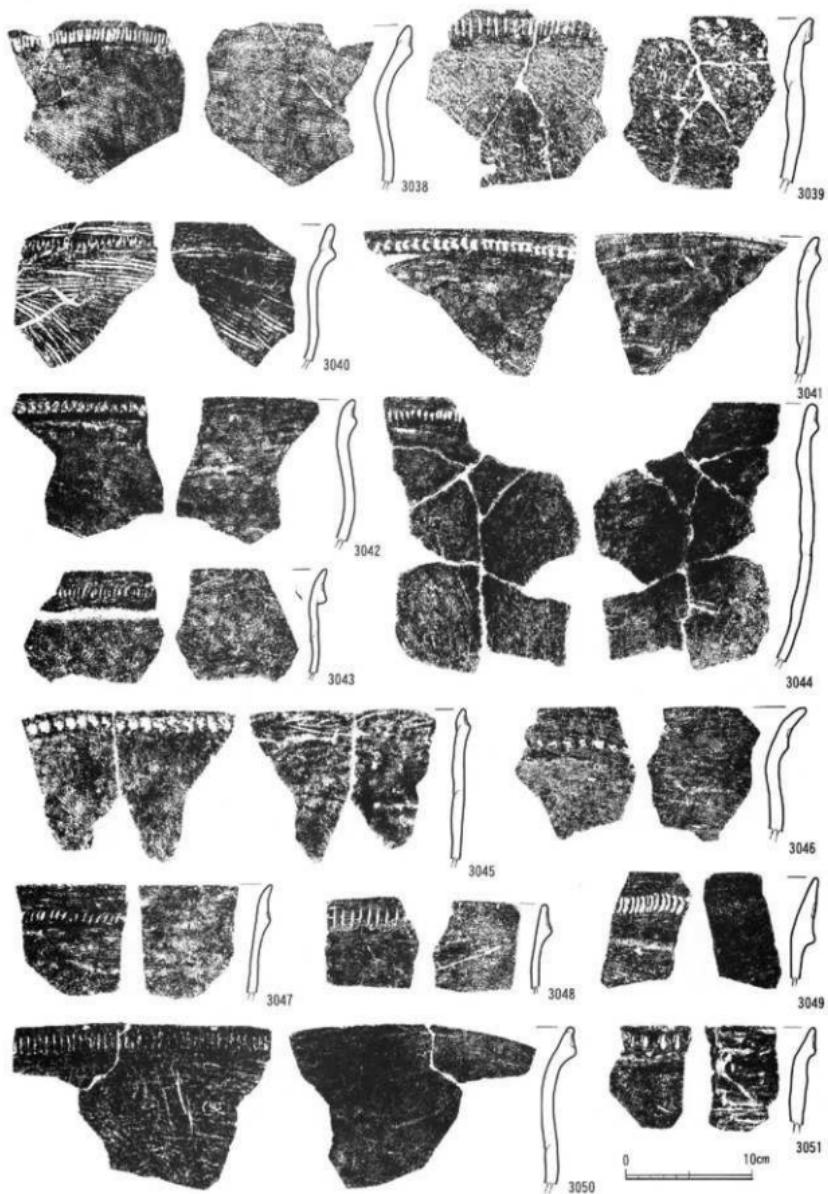
第25図 繩文土器 (189)



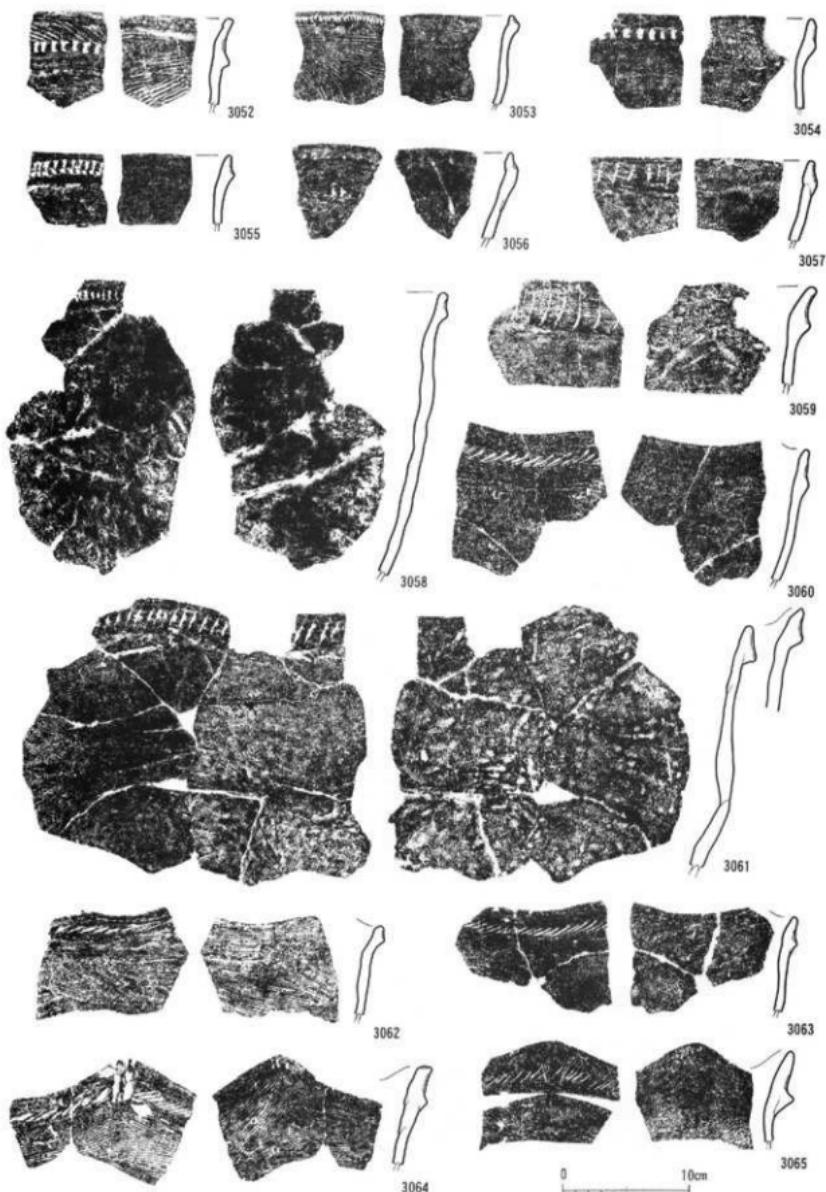
第26図 縄文土器 (190)



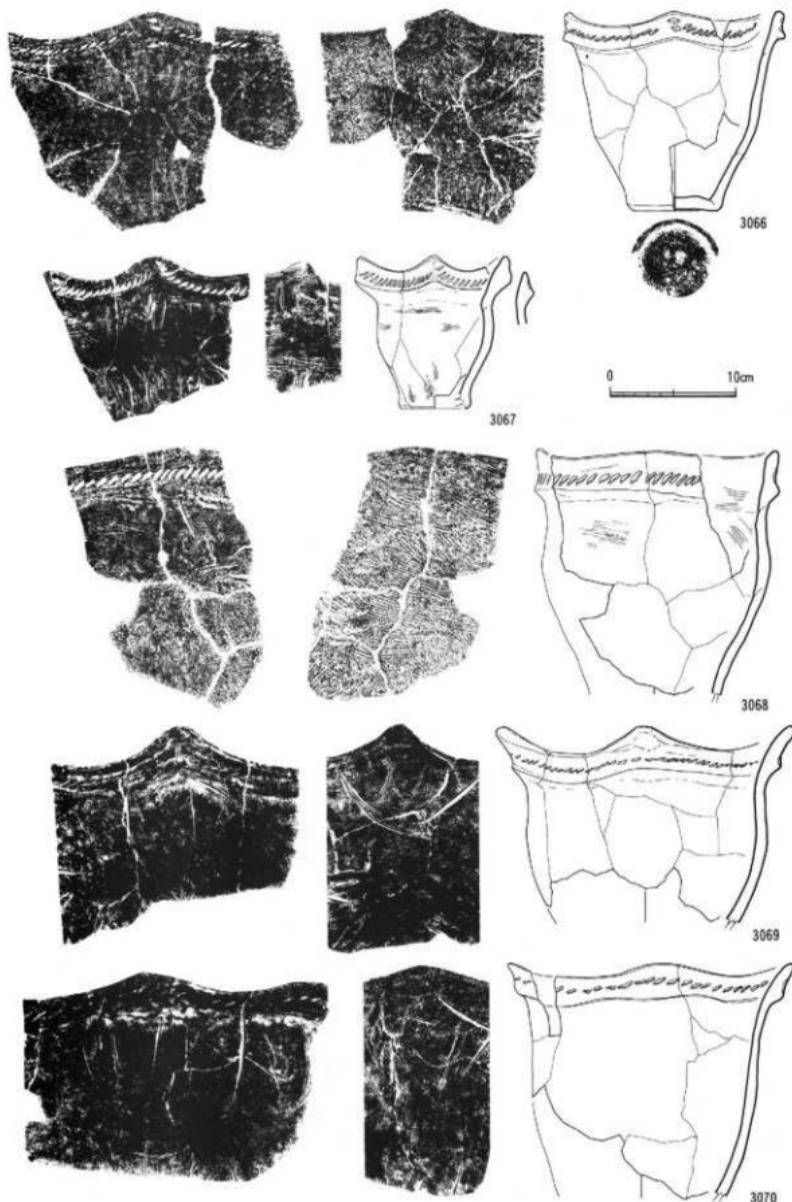
第27図 繩文土器 (191)



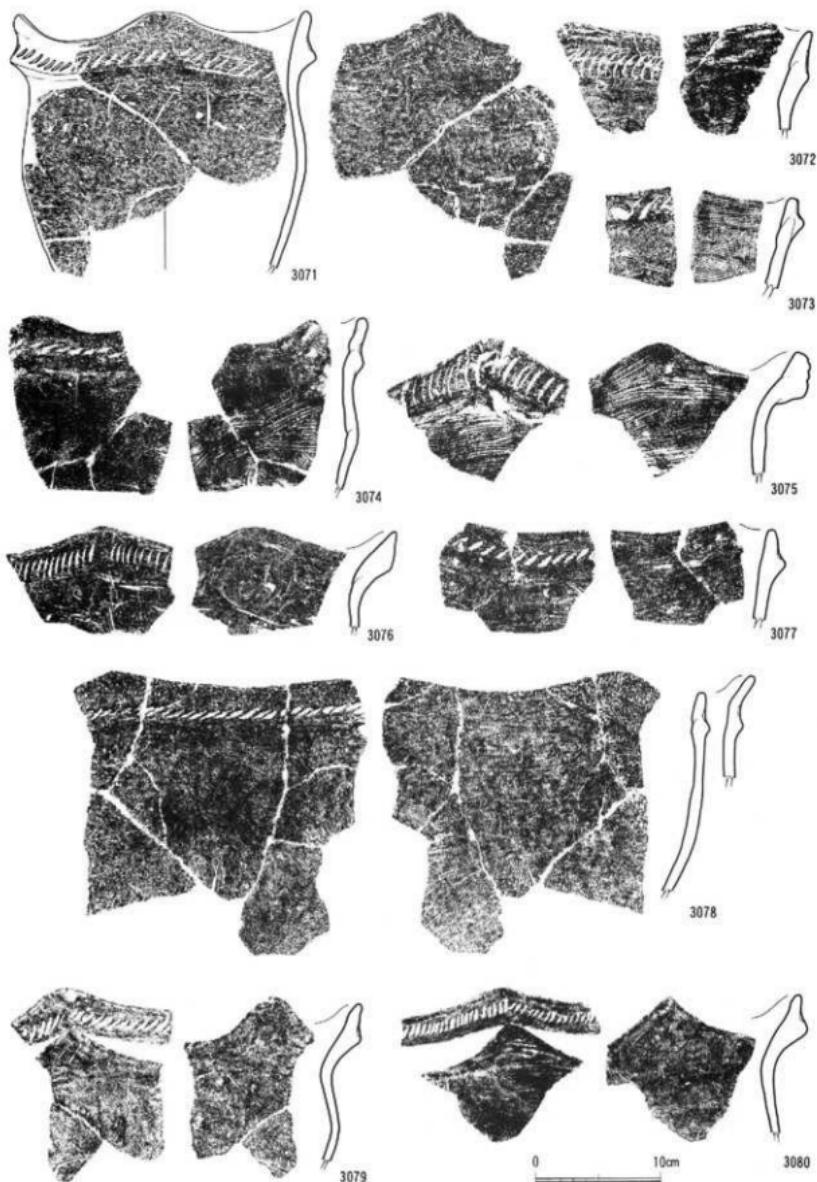
第28図 縄文土器 (192)



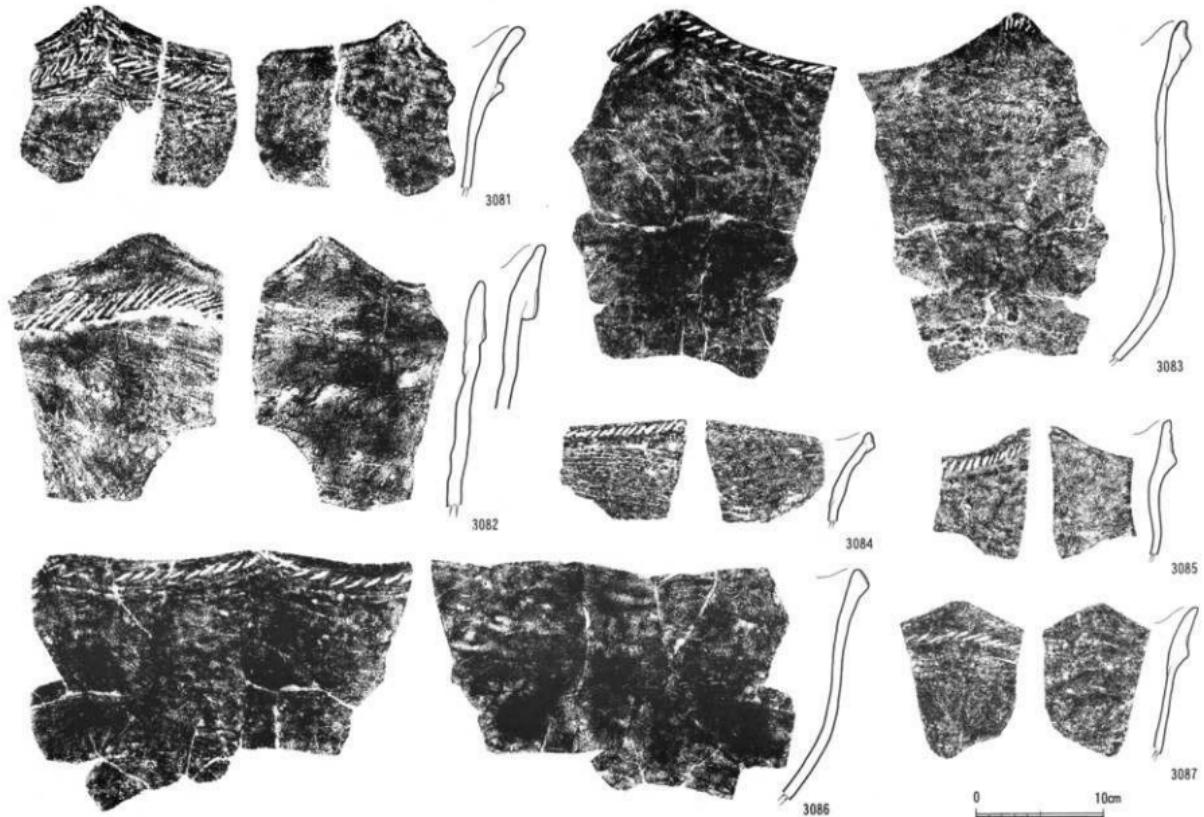
第29図 縄文土器 (193)



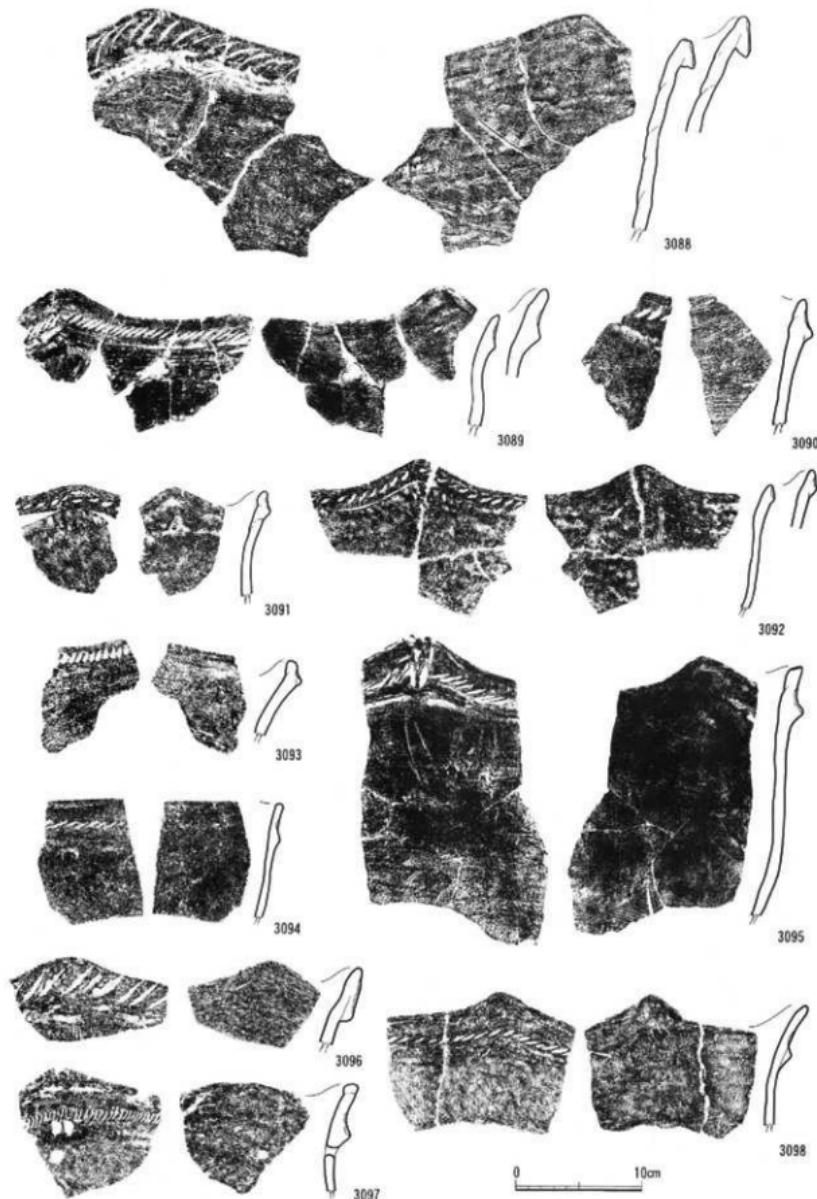
第30図 繩文土器 (194)



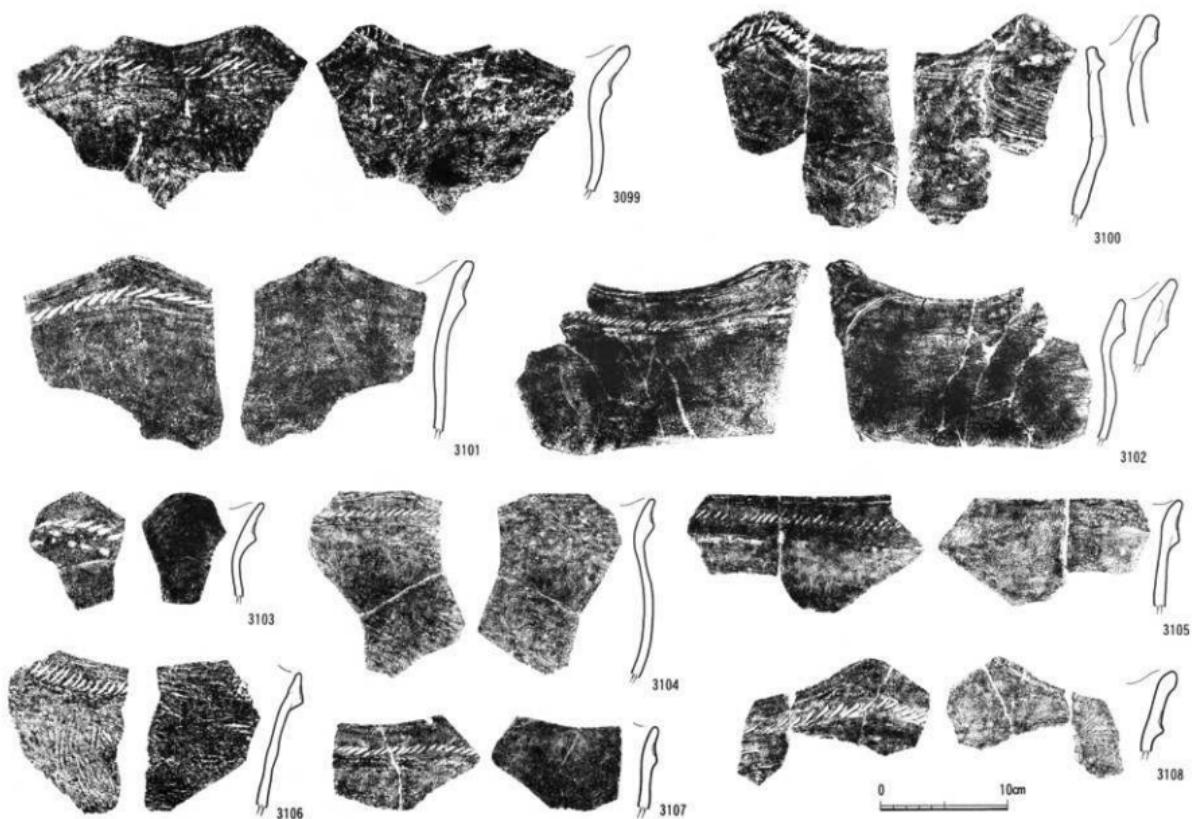
第31図 繩文土器 (195)



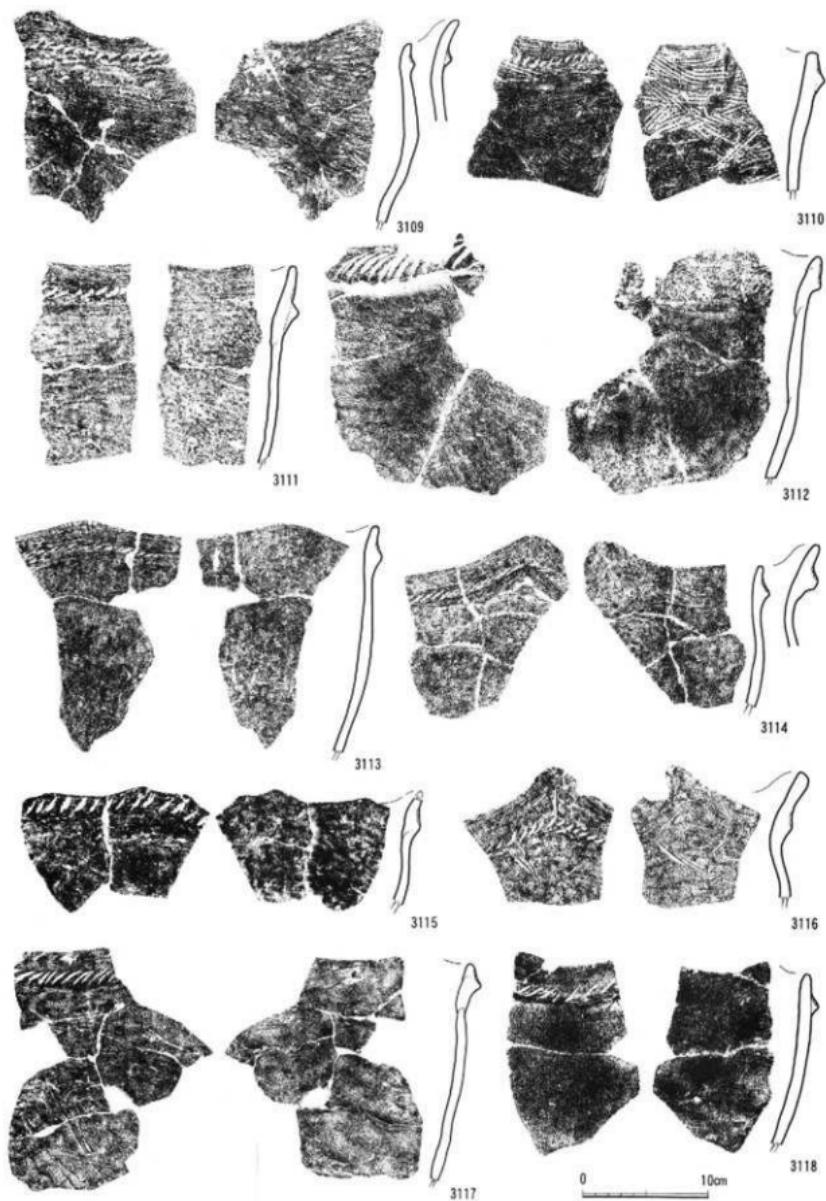
第32図 繩文土器 (196)



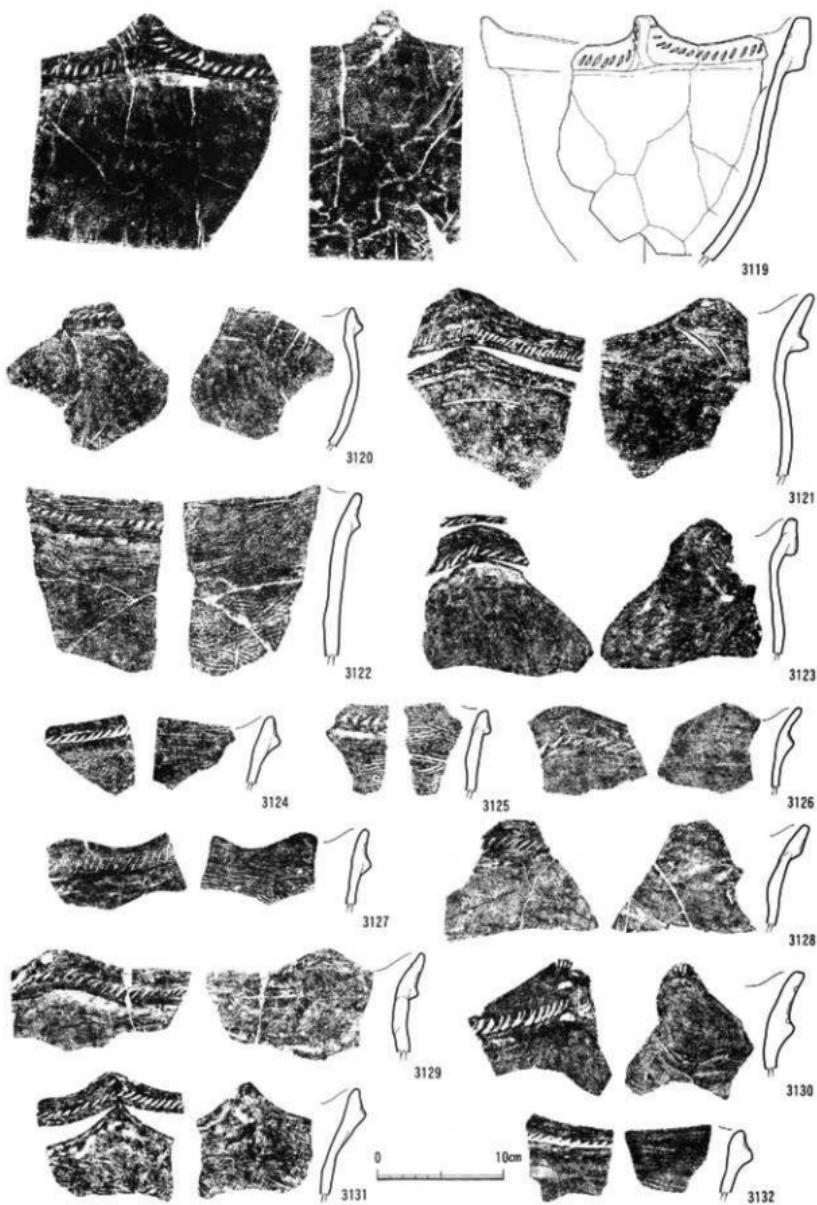
第33図 縄文土器 (197)



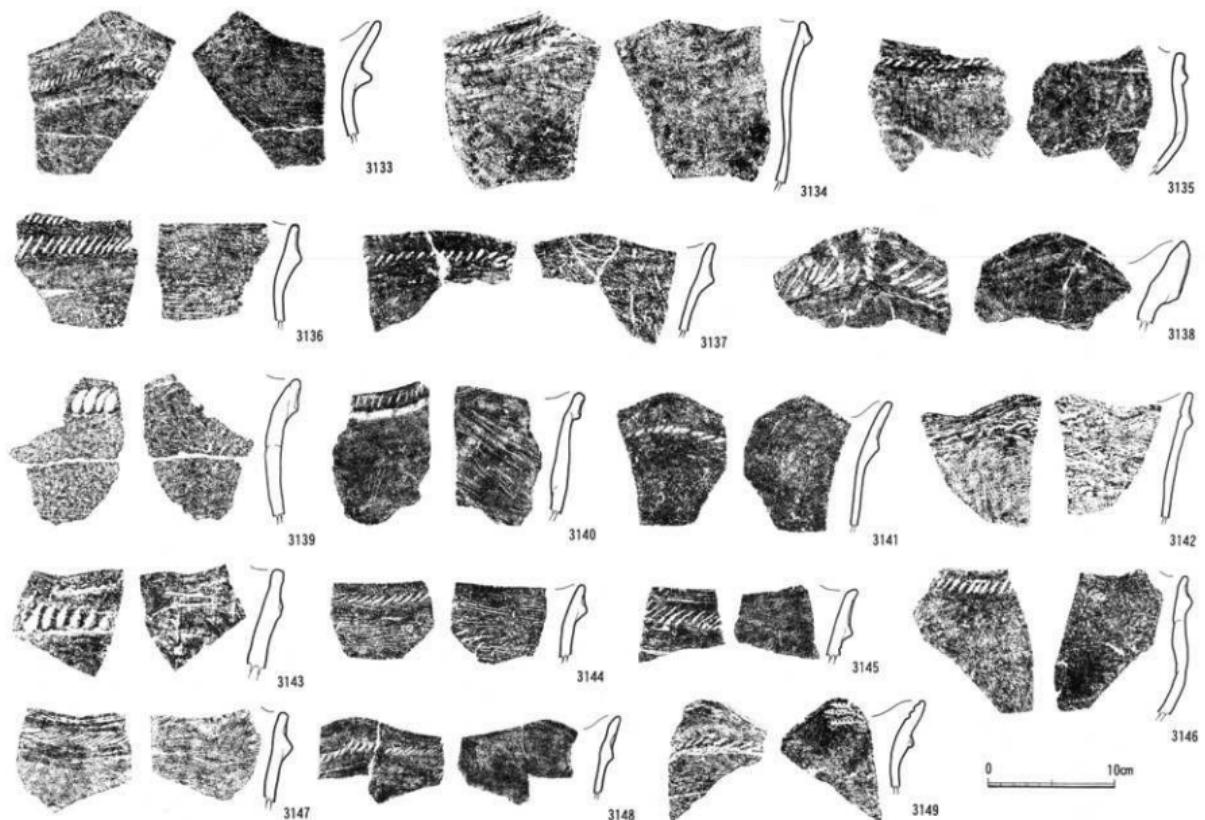
第34図 繩文土器 (198)



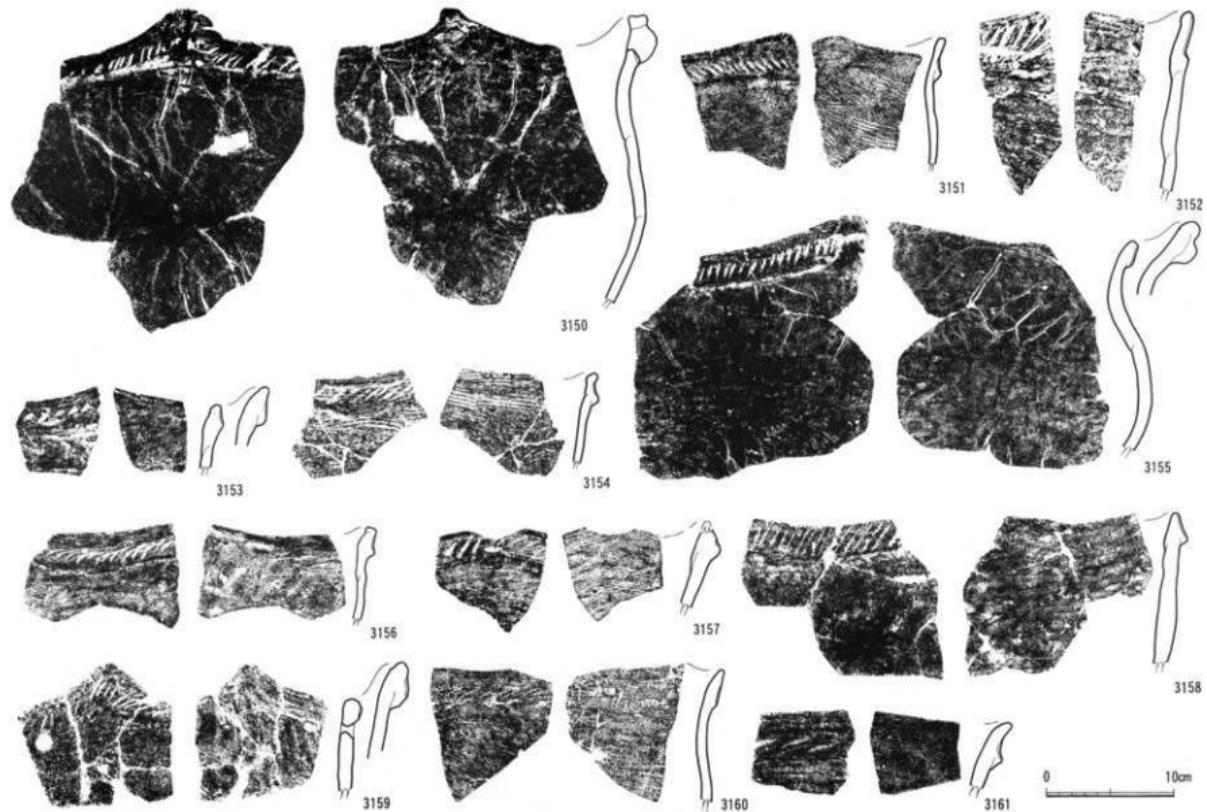
第35図 繩文土器 (199)



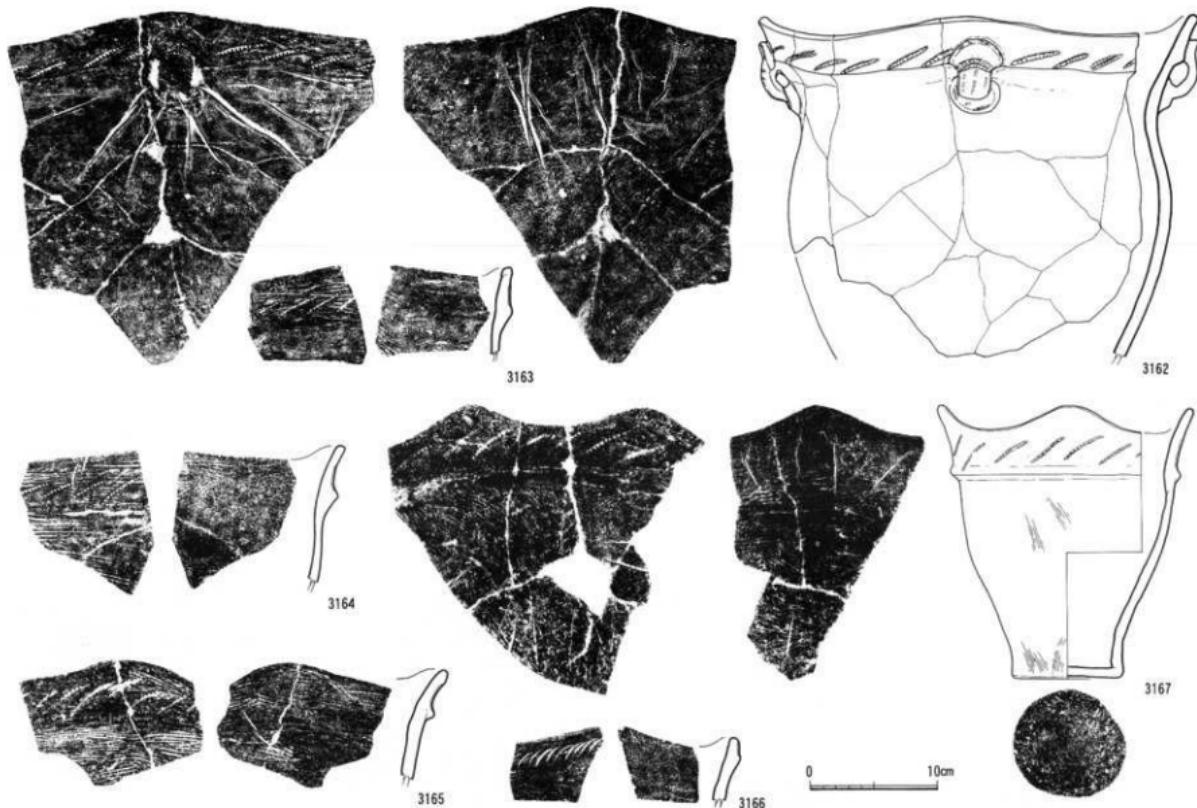
第36図 繪文土器 (200)



第37図 繩文土器 (201)

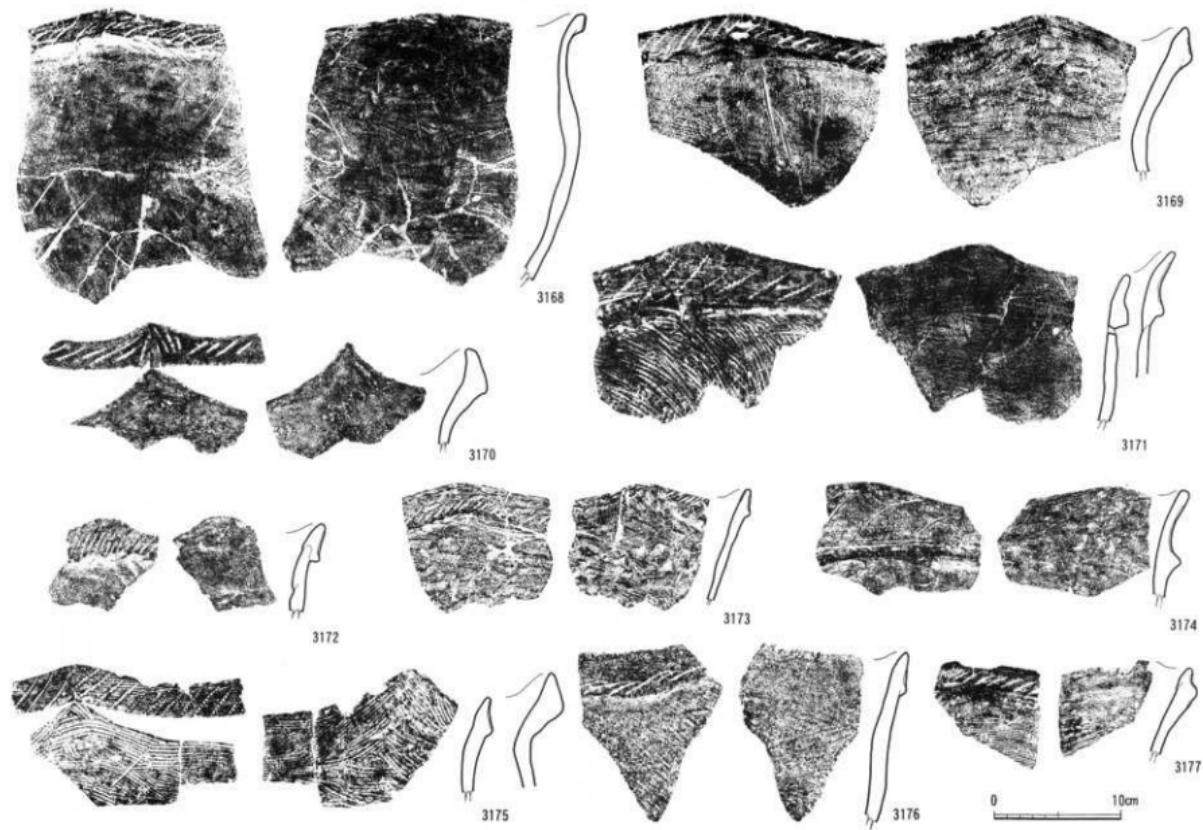


第38図 縄文土器 (202)

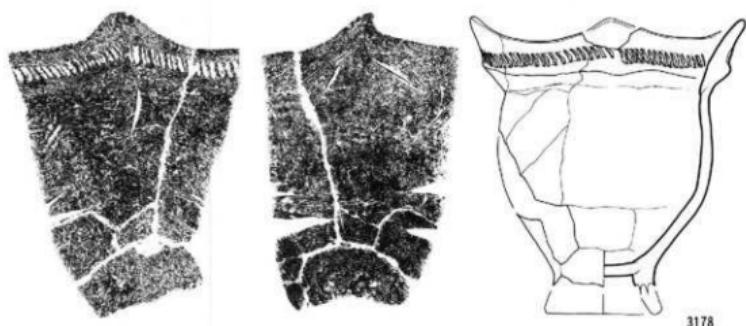


第39図 縄文土器 (203)

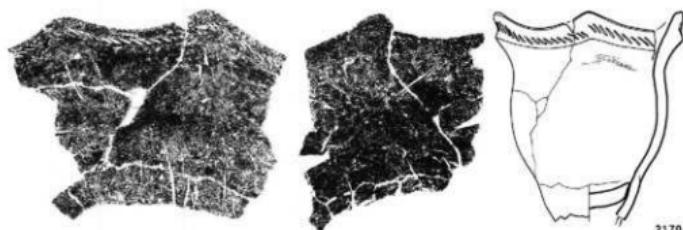
— 5 —



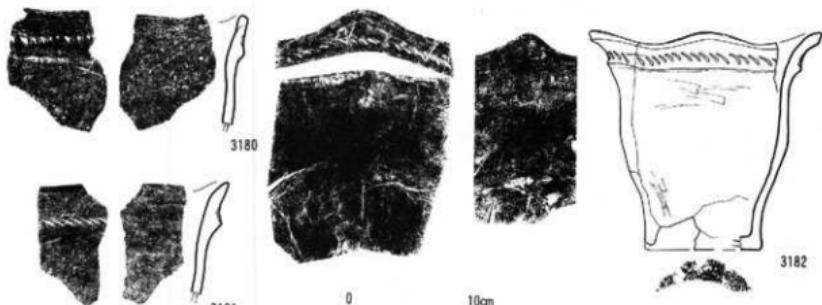
第40図 縄文土器 (204)



3178



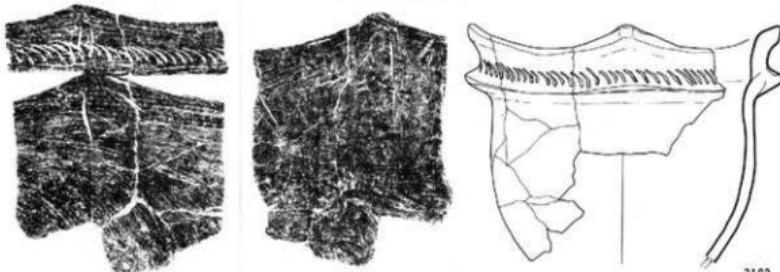
3179



3180

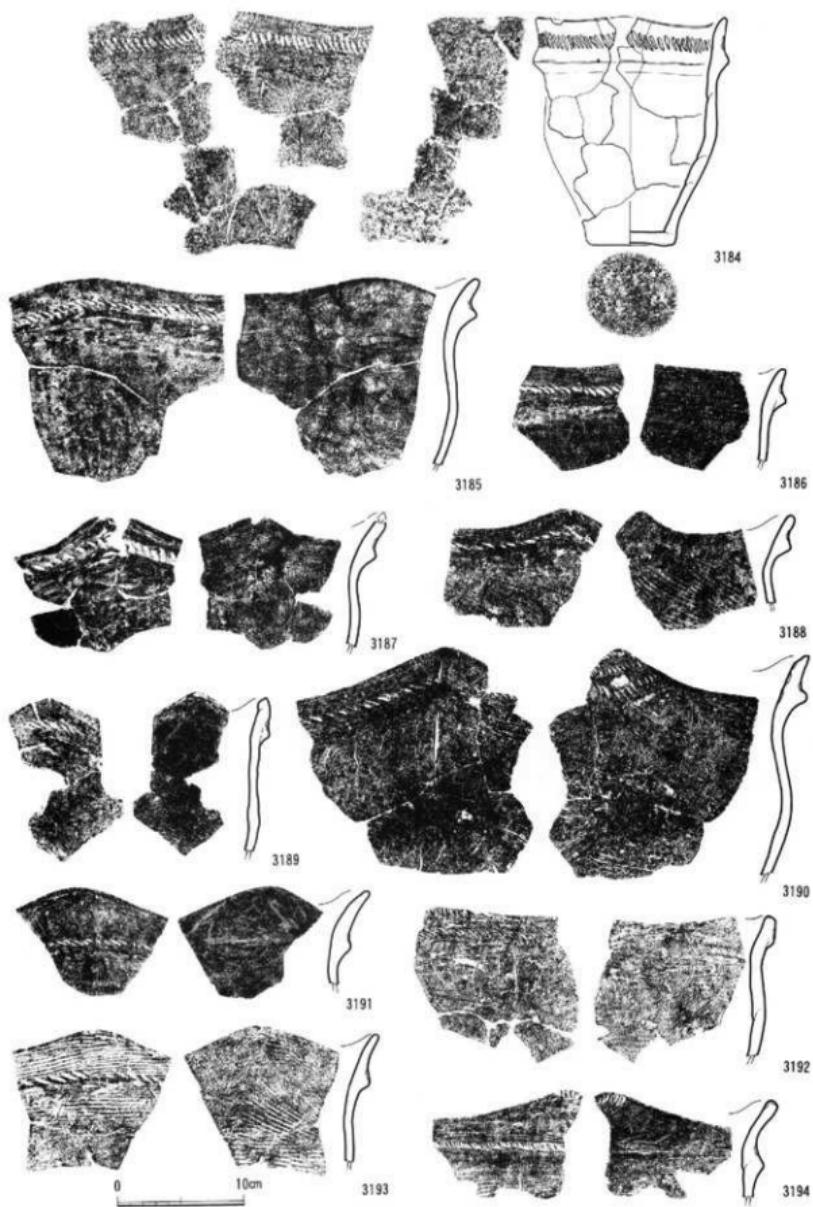
3181

3182

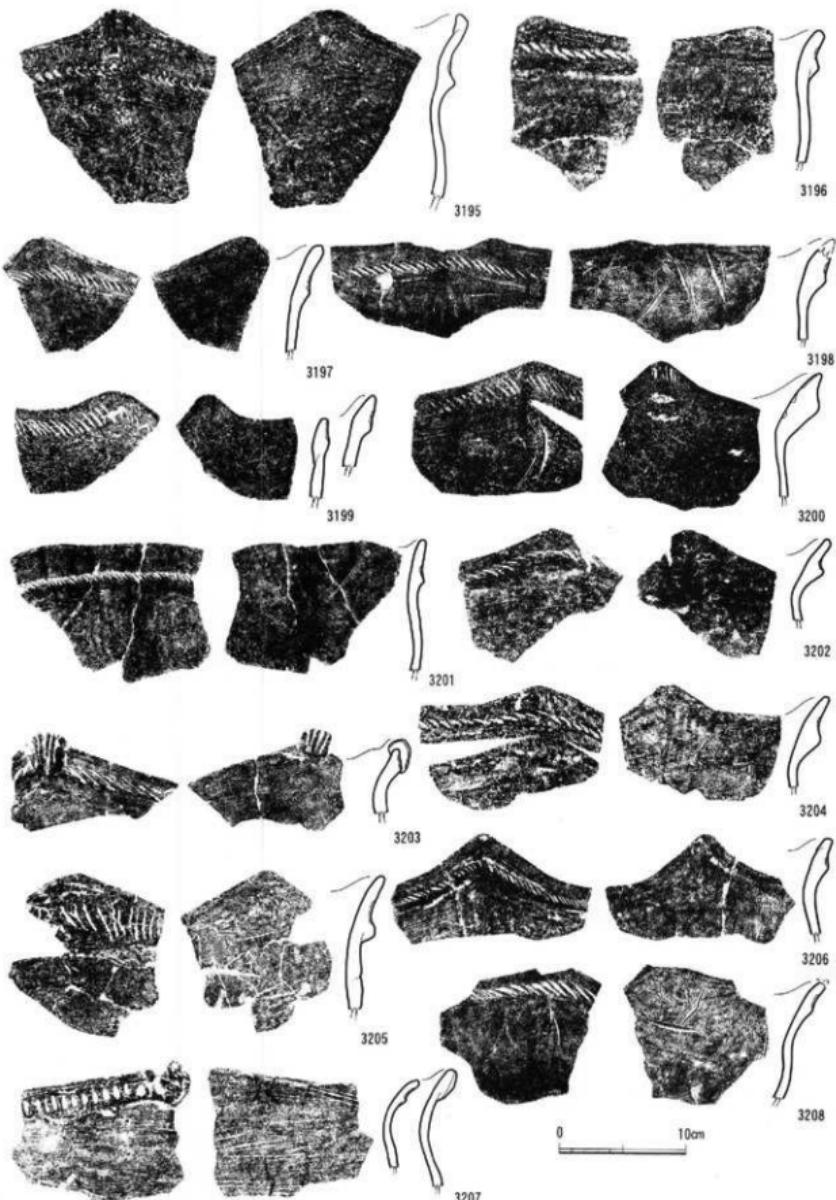


3183

第41図 繩文土器 (205)

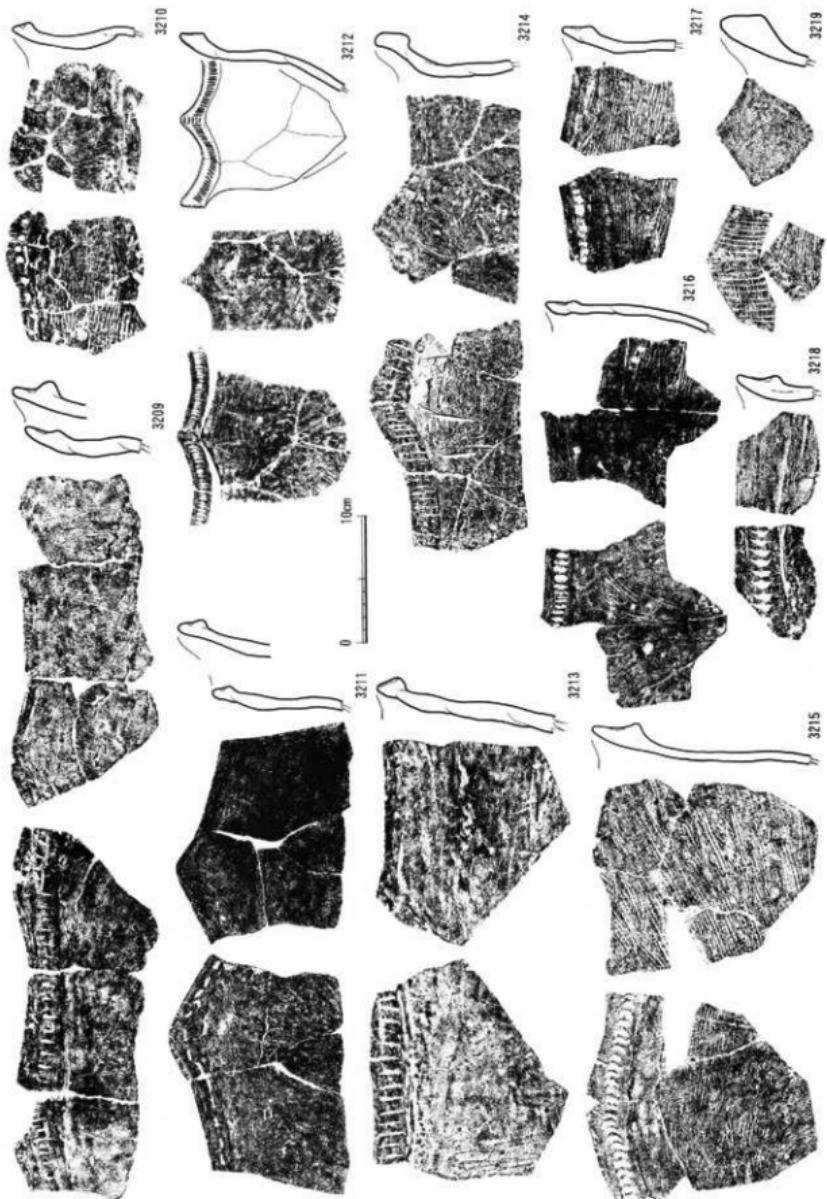


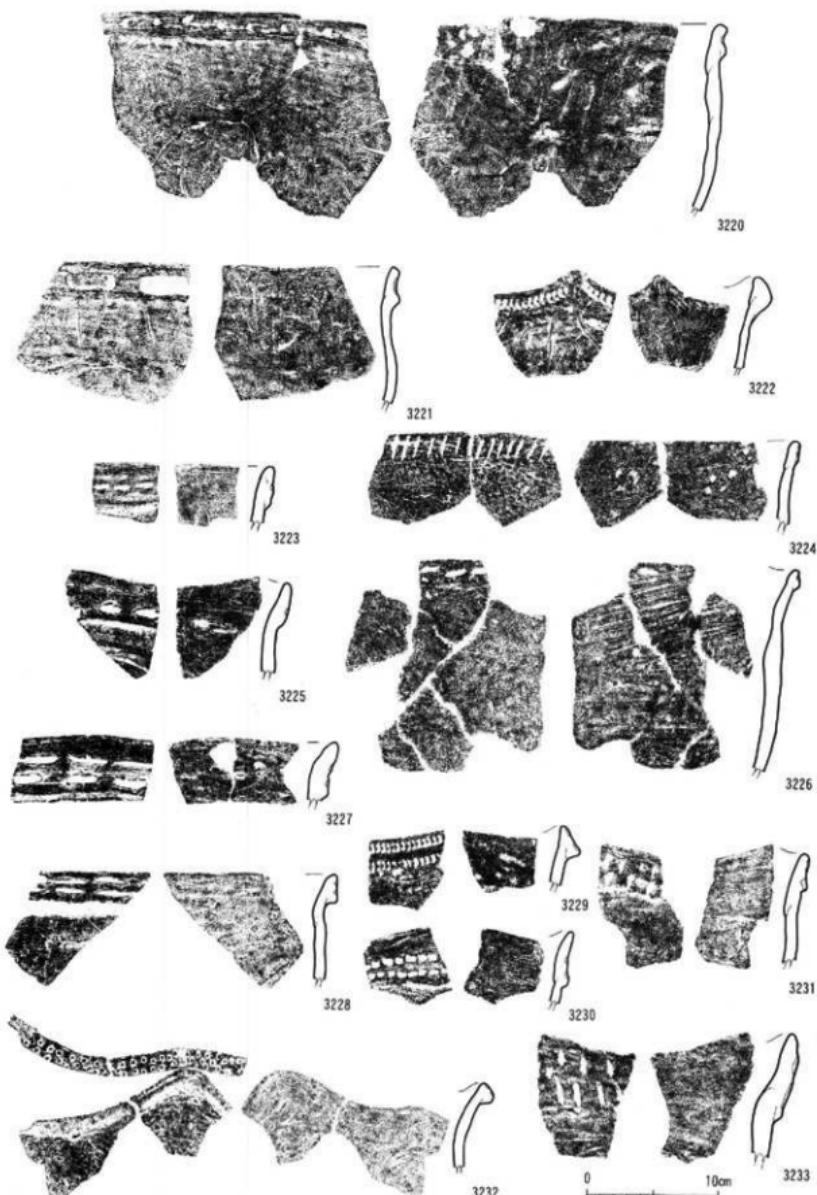
第42図 縄文土器 (206)



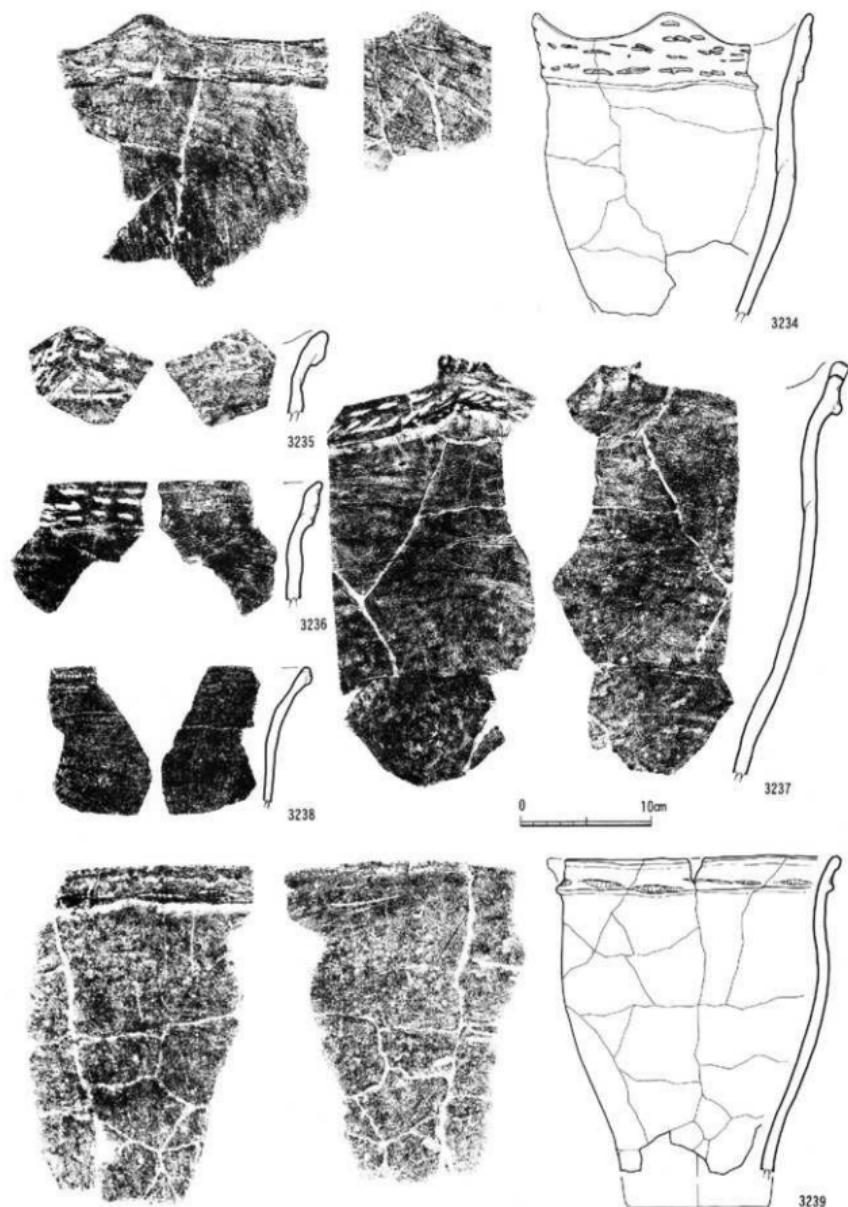
第43図 繩文土器 (207)

第44図 繩文土器 (208)

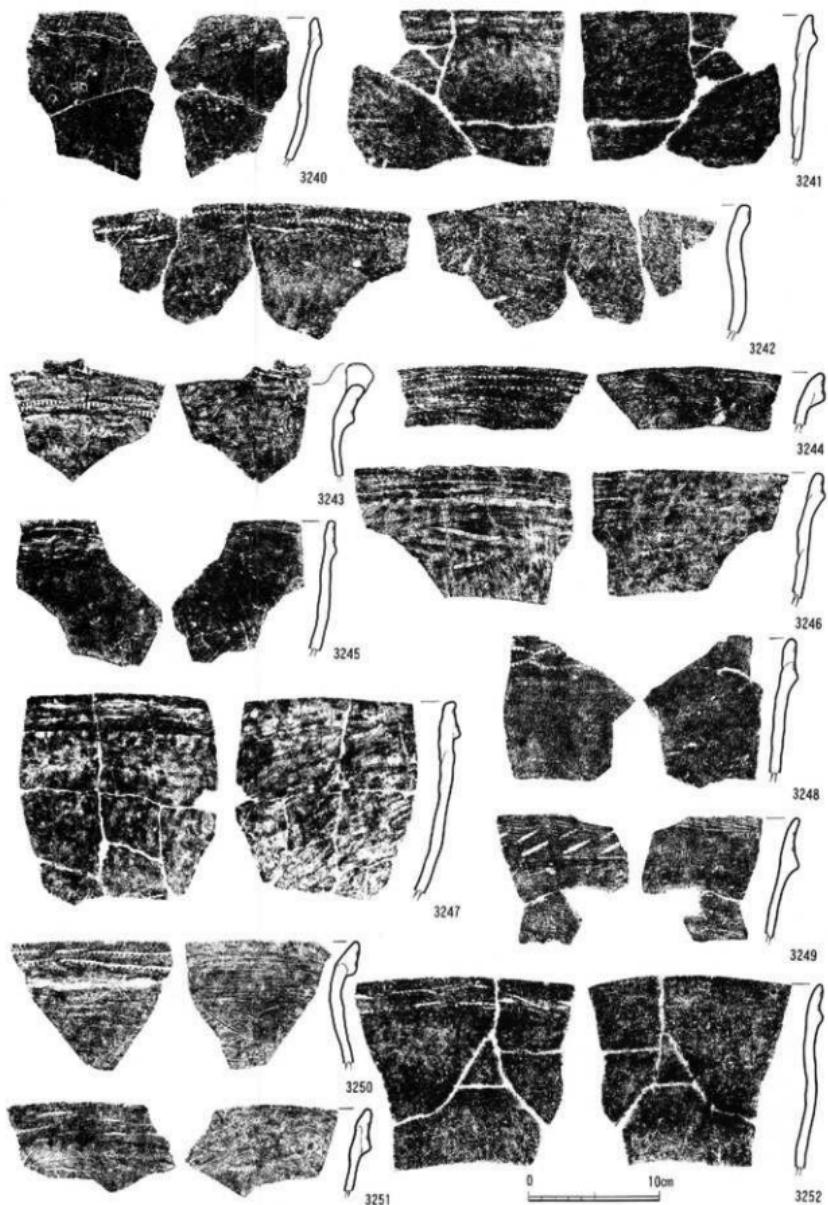




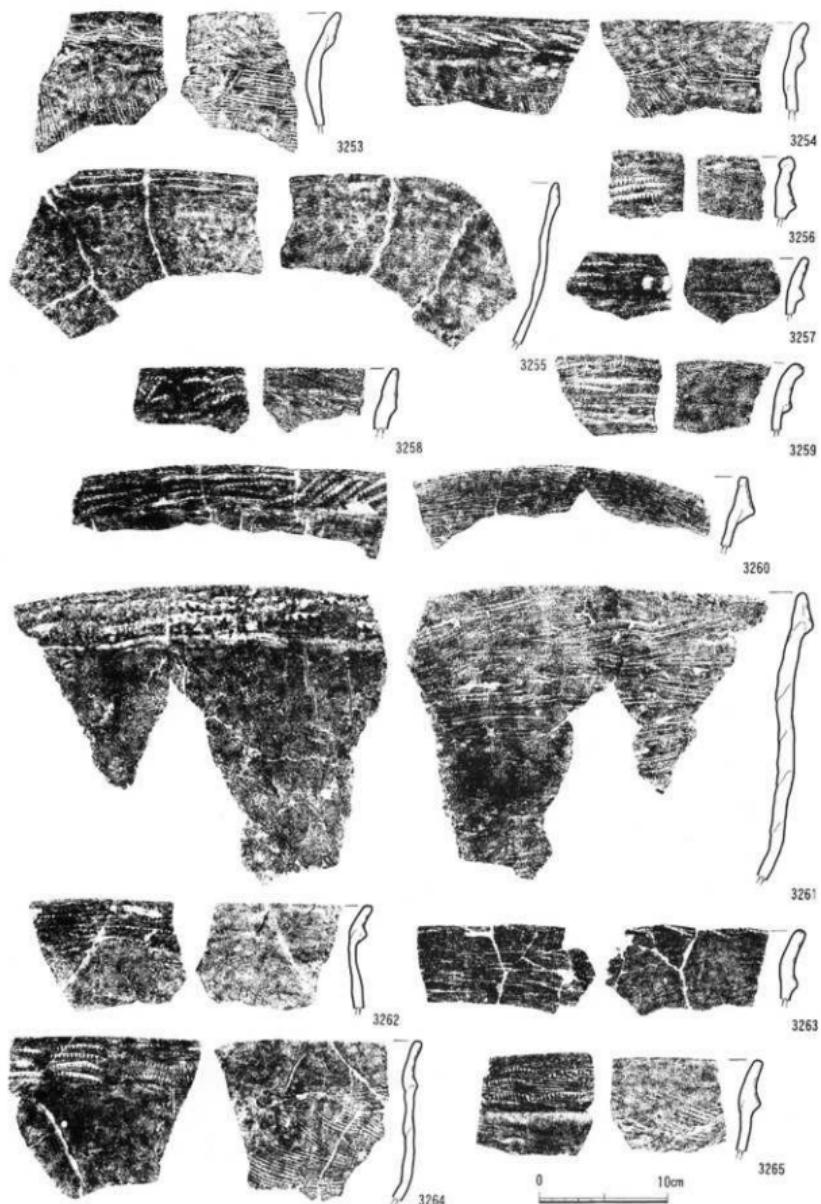
第45図 縄文土器 (209)



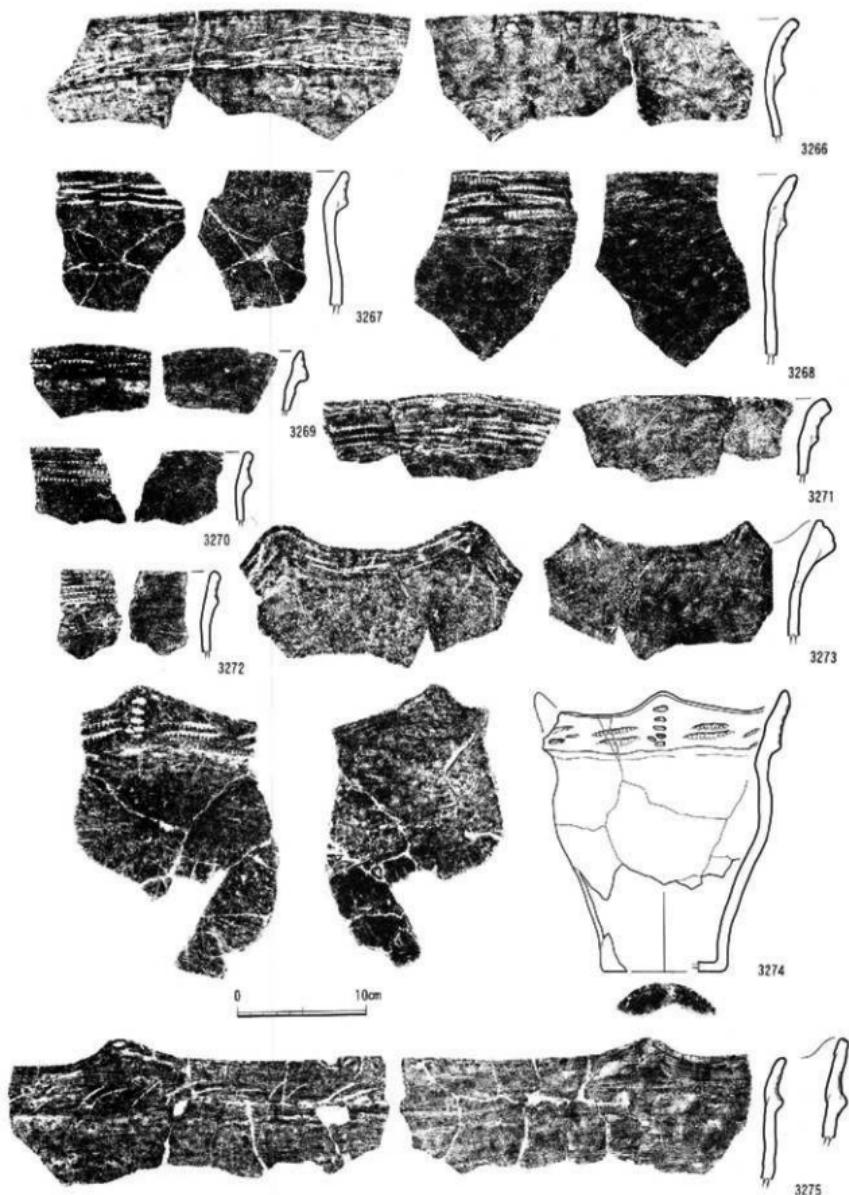
第46図 縄文土器 (210)



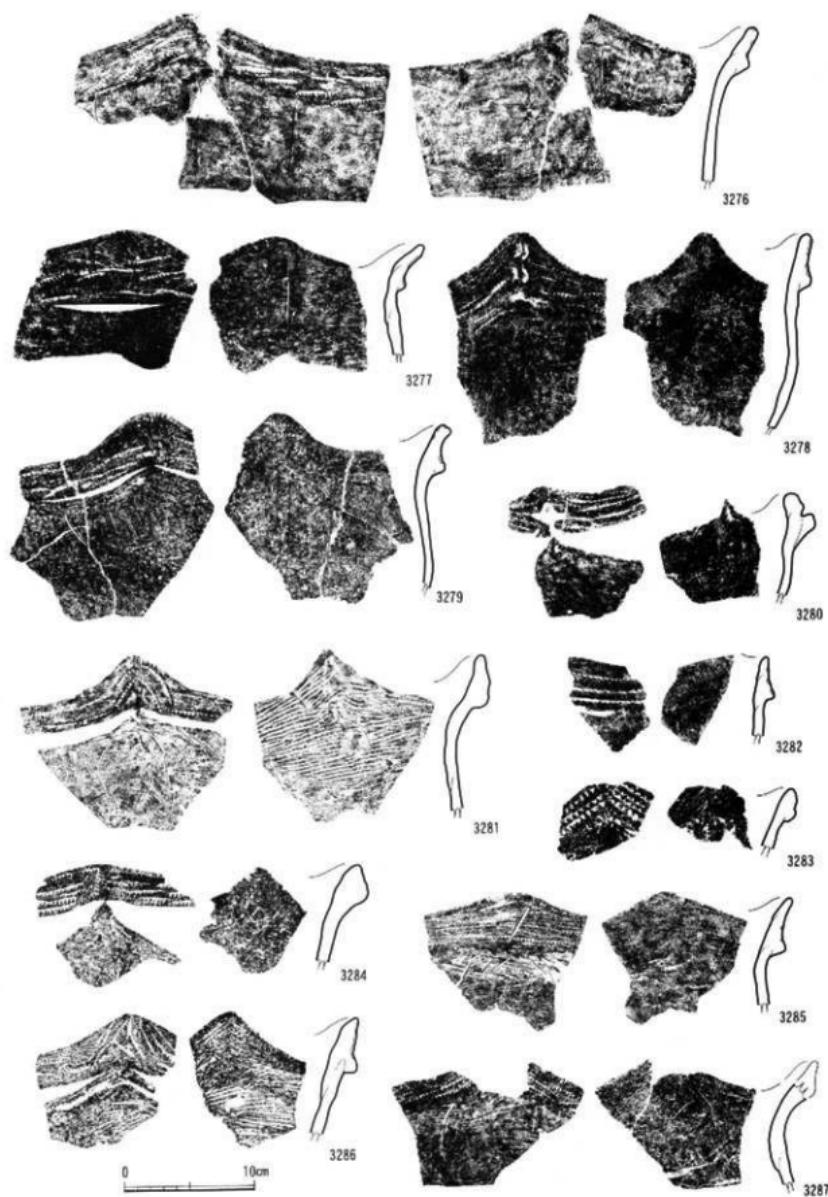
第47図 繩文土器 (211)



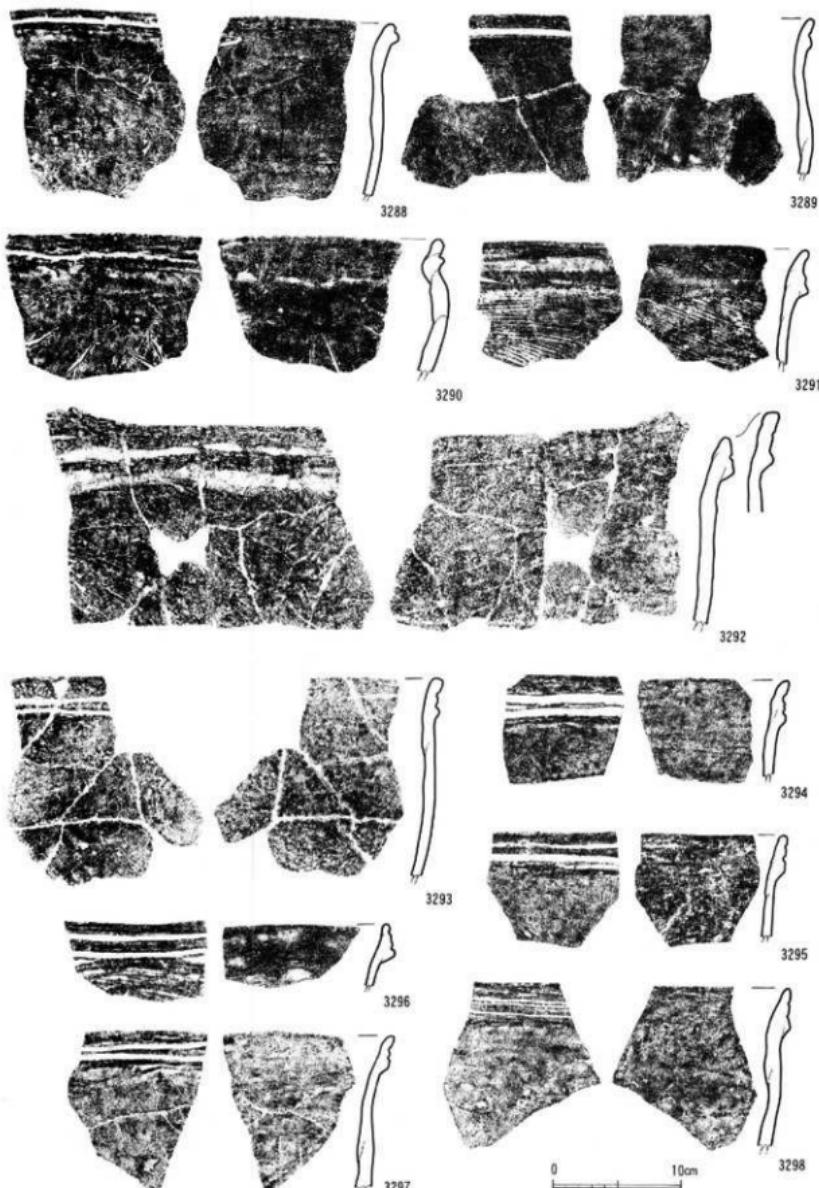
第48図 縄文土器 (212)



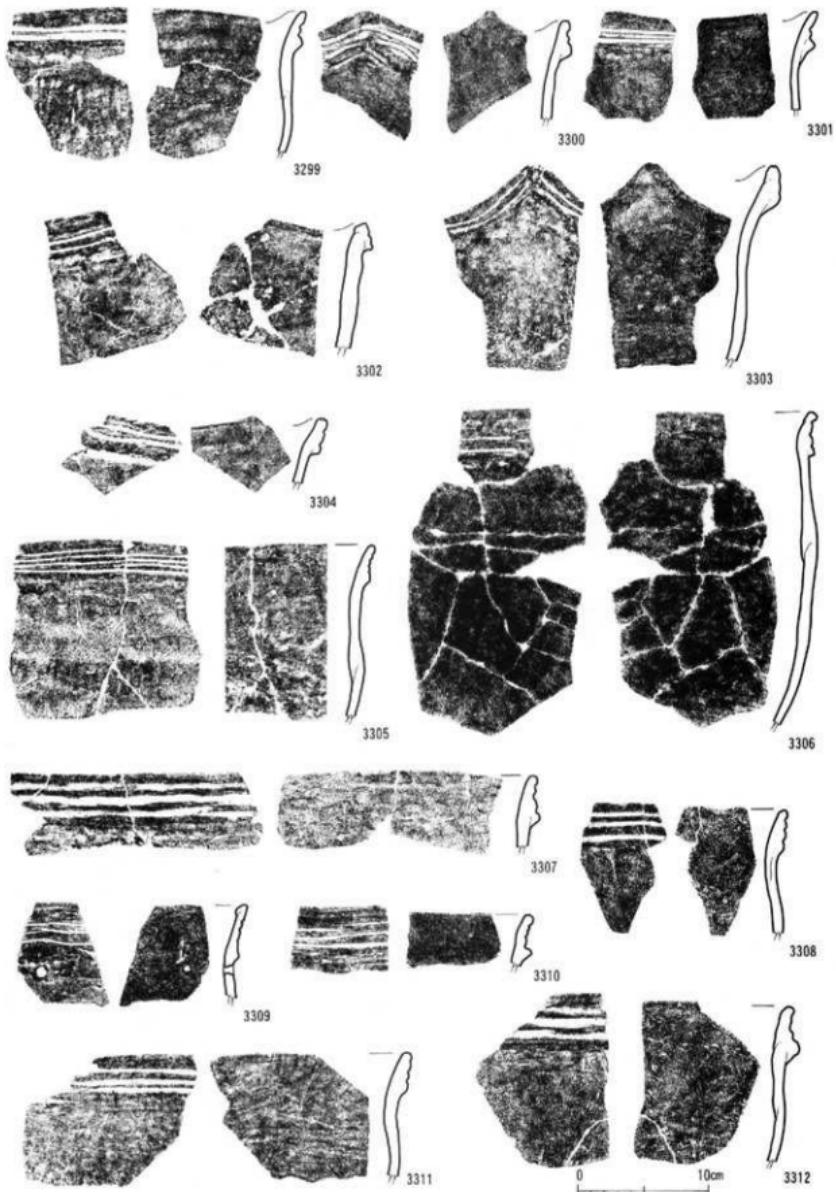
第49図 繩文土器 (213)



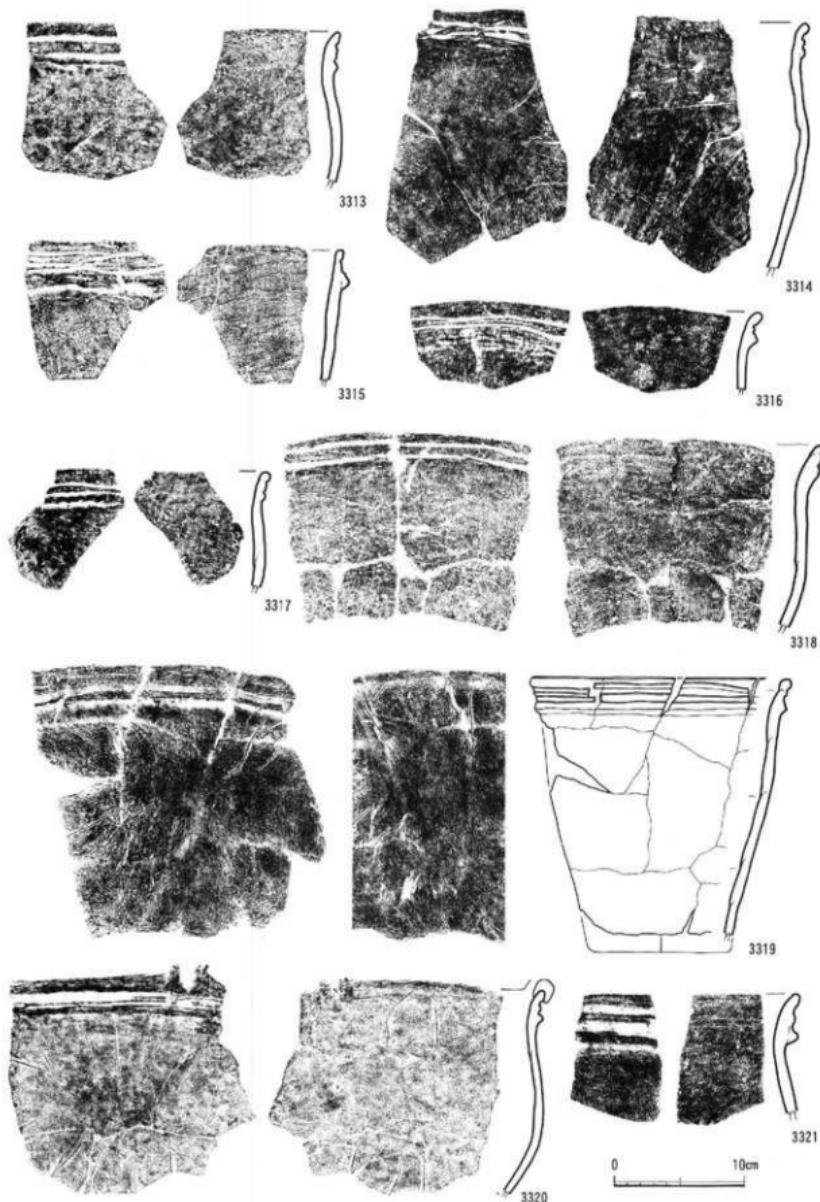
第50図 繩文土器 (214)



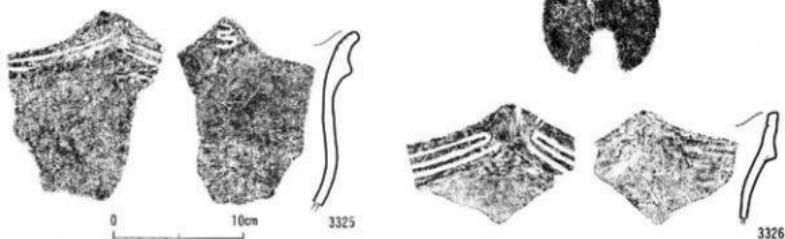
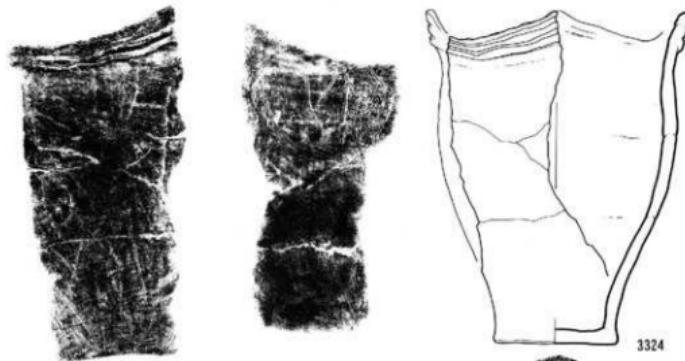
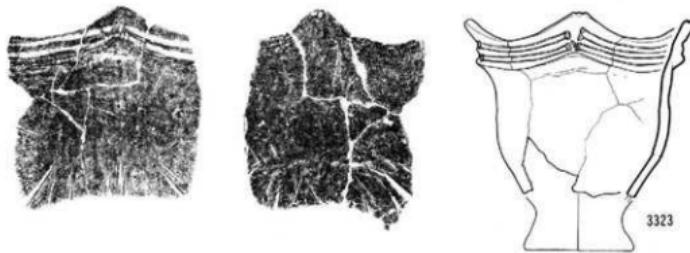
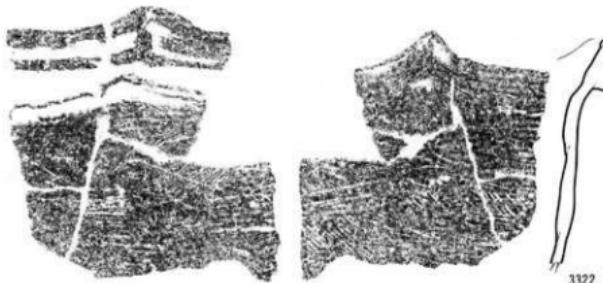
第51図 繩文土器 (215)



第52図 繩文土器 (216)

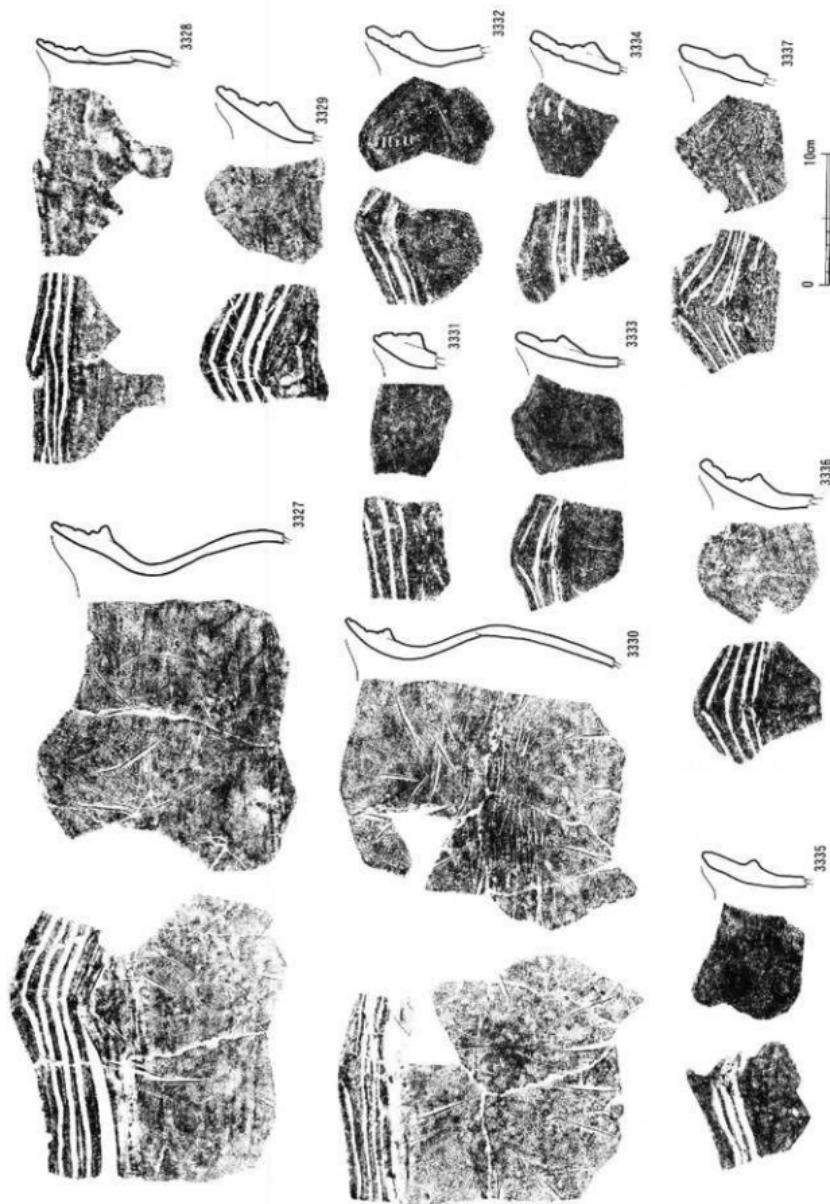


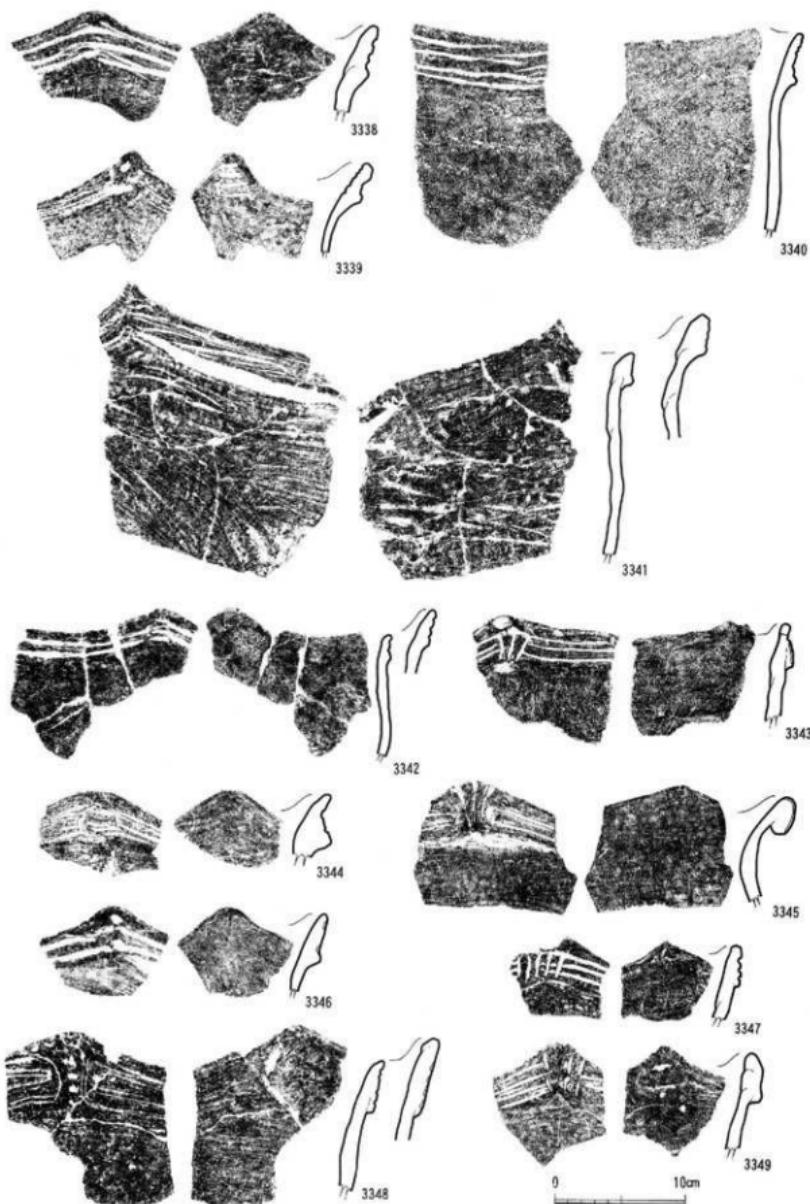
第53図 縄文土器 (217)



第54図 縄文土器 (218)

第55圖 繩文土器 (219)





第56図 縄文土器 (220)